

国立大学法人
上越教育大学 学校教育学部
学生募集要項 2019

インターネット出願のため、この学生募集要項に
出願書類は添付されていません。

平成30年度入学者選抜試験（平成29年度実施）から、出願方法を「インターネット出願」に全面移行しました。
出願期間内に、「Web出願登録」・「検定料納入」・「出願書類の提出」を完了してください。

※私費外国人留学生の特別入試及び欠員補充第2次募集は、紙の願書での出願となります。

入試関係日程一覧

入 試 方 法	インターネット出願登録期間 及び検定料支払期間	出 願 期 間 (出願書類提出期間)	試 験 日	合格者の発表
推 薦 入 試	平成30年12月7日(金)10時 ～ 12月14日(金)15時まで	平成30年12月7日(金) ～ 12月14日(金) <u>17時必着</u>	平成31年2月1日(金)	平成31年2月13日(水)
私費外国人留学生 の 特 別 入 試		平成30年12月3日(月) ～ 12月7日(金) <u>17時必着</u>		
一 般 入 試 (前 期 日 程)	平成31年1月28日(月)10時 ～ 2月6日(水)15時まで	平成31年1月28日(月) ～ 2月6日(水) <u>17時必着</u>	平成31年2月25日(月)	平成31年3月8日(金)
一 般 入 試 (後 期 日 程)			平成31年3月12日(火)	平成31年3月22日(金)

不測の事態等により試験時間等を変更する場合は、上越教育大学携帯サイトにて周知します。
出願前や受験直前は特にご注意願います。

U R L <http://daigakujc.jp/juen/>

[QRコード]



目 次

	ページ
I 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)	3
1 教育の理念・目的	3
2 学校教育学部目標	3
3 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)	3
II 募集人員・入学者選抜方法等	4
1 募集人員	4
2 入学者選抜方法	4
3 出願資格	4
4 平成31年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	5
III 出願に当たっての留意事項	8
IV 出願手続	9
V 受験上又は修学上の配慮を必要とする入学志願者との事前相談	13
VI 一般入試	14
前期日程	14
募集人員	14
入試方法	14
試験の日程	14
試験場	15
試験の実施方法	15
配点等	16
合格者の発表	16
入学手続	16
その他	17
後期日程	18
募集人員	18
入試方法	18
試験の日程	18
試験場	18
配点等	18
合格者の発表	19
入学手続	19
その他	20
追加合格	21
追加合格者への通知等	21
入学手続	21

VII	推薦入試	23
	募集人員	23
	推薦要件	23
	入試方法	23
	試験の日程	23
	試験場	23
	配点等	24
	合格者の発表	24
	入学手続	24
	入学辞退手続	25
	その他	25
VIII	欠員補充第2次募集	26
IX	私費外国人留学生の特別入試	28
X	その他	33
	大規模災害で被災した志願者への検定料等免除	33
	入試の個人成績等の開示	34
	出願状況等の提供	35
	入学者に対する麻疹（はしか）等の防止措置	35
	教育実習等に係る費用負担	35
	ノート型パーソナルコンピュータの所持	36
	キャンパス内全面禁煙	36
	本学に関する問い合わせ	36
	<参考>	
	コース(領域)の紹介	37
	<附録>	
	平成30年度入試合格者成績情報	48
	平成30年度入学試験状況	48
	平成30年度上越教育大学入学者選抜試験 試験問題	49
	本学へのアクセス	裏表紙

I 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

上越教育大学では、「上越教育大学学校教育学部における卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受入れの方針」を策定し、公表しています。

以下に、教育の理念・目的、学校教育学部の目標、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を示します。

1 教育の理念・目的

上越教育大学（以下「本学」という。）は、本学大学憲章に基づき、子供の未来を切り開くことのできる確かな実践力を備え、我が国の教育を担う中核的・指導的な教員の養成を目指している。

教員という職業は、豊かな人間性に支えられた専門職である。その専門性には、子供たちの学習と生活を支援でき、そして人類の築き上げた文化を全体として理解・把握する、つまり様々な学問分野の考え方を整理・統合し、人間の文化的営みを理解できる総合的な資質・能力が求められている。

そのため、本学では、「21世紀を生き抜くための能力（基礎力・思考力・実践力）」を身につけ、「人間力（優れた人格・豊かな感性・未来創造力）」を備え、さらに「教育実践力（豊かな教養・高度な専門的知識・優れた教育技術・使命感・創造力・人間愛）」及び「学び続ける力」を有する教員を養成する。

2 学校教育学部の目標

主として初等教育教員の養成に関する社会的要請に応えるべく、深い人間理解と豊かな学識及び優れた教育技術を備えた教員を養成する。

そのため、教員としての使命感や責任感を育むとともに、社会性や対人関係の力、子供を理解し学級を運営する力、人文科学・社会科学・自然科学・芸術・スポーツについてのバランスのとれた専門的能力とその指導力など、教員に必要な基本的資質と実践的な能力を養成する。

3 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

(1) 本学では、以下に掲げる学生を求めている。

ア 教員を目指すために十分な幅広い基礎学力を修得している。【基礎力】

イ 物事を多面的かつ論理的に考察することができ、自分の考えを適切な方法で表現し、他者に伝えることができる。【思考力】

ウ 生活や社会、環境の中に問題を見出し、多様な人々と関わりながら、課題を解決していくことができる。【実践力】

エ 教員を目指す強い意志を持ち、積極的に学修を進めていくことができる。【学び続ける力】

オ 自分らしい生き方を教職との関係において追究し、人格及び感性を高めていこうとする態度を備えている。【人間力】

(2) 以上の受入れの方針に基づいて、本学では、一般入試（前期日程）、一般入試（後期日程）、推薦入試の三つの方法で選抜を行う。

ア 基礎力を評価するため、三つの選抜方法とも大学入試センター試験を課す。

イ 一般入試（前期日程）では、実技教科への基礎的適性を含むバランスのとれた基礎力を有し、思考力と実践力を備えた学生を選抜する。基礎力を評価するため、上記アに加え、実技検査（音楽・美術・体育のうちから選択）を課す。また、思考力・実践力を評価するため、小論文と集団面接試験を課す。

ウ 一般入試（後期日程）では、上記アに加え、特に学び続ける力と人間力に優れた学生を選抜するため、主に教職への強い関心・意欲と人間性を高めようとする意志に関して質問する個別面接試験を課す。

エ 推薦入試では、上記アに加え、特に実践力と人間力に優れた学生を選抜するため、高等学校等の段階での経験・活動実績を踏まえて総合的に質問する個別面接試験を課す。

※卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、本学ホームページ（<http://www.juen.ac.jp/050about/010info/H31faculty.html>）をご覧ください。

Ⅱ 募集人員・入学者選抜方法等

1 募集人員

学 部	課 程	入学定員	募 集 人 員		備 考
学校教育学部	初等教育教員 養成課程	160人	前 期 日 程	77人	私費外国人留学生は、特別入試により若干人を募集する。
			後 期 日 程	33人	
			推 薦 入 試	50人	

(注) 2年次から、本人の希望と1年次の成績に基づいて、次のいずれかのコースに所属することになります。

詳細については、37ページ「コース（領域）の紹介」をご覧ください。

- ・ 学校教育専修
学校教育実践コース，先端教科・領域学習コース，現代教育課題コース，
幼年教育コース，心理臨床コース，教科内容構成コース

2 入学者選抜方法

入学者の選抜は、次の方法により行います。

- ・ 一般入試（前期日程，後期日程）
- ・ 推薦入試
- ・ 私費外国人留学生の特別入試

3 出 願 資 格

(1) 一般入試

次のいずれかに該当し、かつ、平成31年度大学入試センター試験（5教科7科目又は6教科7科目（理科において「基礎を付した科目」を選択する場合は、5教科8科目又は6教科8科目））を受験した者です。

- ① 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又は平成31年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は平成31年3月修了見込みの者
- ③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者若しくは平成31年3月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は平成31年3月31日までに修了見込みの者
- ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は平成31年3月修了見込みの者
- ⑥ 文部科学大臣の指定した者（昭和23年文部省告示第47号）
- ⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

- ⑧ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したものの又は平成31年3月31日までに18歳に達するもの
【上記出願資格⑧により出願する場合の手続きは、7ページのとおりとします。】

(2) **推薦入試**

次のいずれかに該当し、かつ、平成31年度大学入試センター試験（5教科7科目又は6教科7科目（理科において「基礎を付した科目」を選択する場合は、5教科8科目又は6教科8科目））を受験する者です。

- ① 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業した者又は平成31年3月卒業見込みの者（学校教育法施行規則第93条第3項及び第103条第1項等の規定に基づき、平成30年度の学年の途中において高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又は卒業見込みの者を含む。）
- ② 高等専門学校第3学年を平成29年4月から平成30年3月までに修了した者又は平成31年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了した者又は平成31年3月31日までに修了見込みの者

(3) **私費外国人留学生の特別入試**

28ページを参照してください。

4 平成31年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目

一般入試及び**推薦入試**に出願する者並びに平成31年4月1日以降の**欠員補充第2次募集**（入学定員に欠員が生じた場合に実施）に出願する者は、次に掲げる平成31年度大学入試センター試験の5教科7科目又は6教科7科目（理科において「基礎を付した科目」を選択する場合は、5教科8科目又は6教科8科目）の受験を要します。

教 科		科目及び科目選択方法	
国 語		『国語』	
地理歴史	「世界史A」,「世界史B」,「日本史A」,「日本史B」, 「地理A」,「地理B」,	から 1 又は 2 科目 (注1)	理科で a 又は c を 選択する場 合は 4 科目 b 又は d を 選択する場 合は 3 科目 (注2) (注3) (注4)
公 民	「現代社会」,「倫理」,「政治・経済」,『倫理, 政治・経済』		
理 科	a :「物理基礎」,「化学基礎」,「生物基礎」,「地学基礎」 から 2 科目 b :「物理」,「化学」,「生物」,「地学」から 1 科目 c :「物理基礎」,「化学基礎」,「生物基礎」,「地学基礎」 から 2 科目 並びに「物理」,「化学」,「生物」,「地学」から 1 科目 d :「物理」,「化学」,「生物」,「地学」から 2 科目	a ～ d の いずれか 一つ	
数 学	「数学Ⅰ」,『数学Ⅰ・数学A』 から 1 科目 ----- 「数学Ⅱ」,『数学Ⅱ・数学B』 , 『簿記・会計』,『情報関係基礎』 から 1 科目	の計 2 科目	
外 国 語		『英語』(注5),『ドイツ語』,『フランス語』, 『中国語』,『韓国語』 から 1 科目	

(注1) 地理歴史においては、同一名称のA・B出題科目、公民においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。

(注2) 「理科」でa又はbを選択する場合は、「地理歴史、公民」から2科目を選択してください。
また、c又はdを選択する場合は、「地理歴史、公民」から1科目を選択してください。

(注3) 「地理歴史、公民」で1科目を選択し、「理科」でcを選択する場合は、理科において同一名称を付した出題科目（「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」）の組合せを選択することはできません。ただし、「地理歴史、公民」で2科目を選択し、「理科」でcを選択する場合は、この限りではありません。
この場合における本学の成績利用方法は、（注4）2.のとおりです。

(注4) [地理歴史，公民から2科目]，[理科からc又はdにより3科目又は2科目]を受験した場合は，理科の科目選択方法に応じて，次の3科目（理科の基礎を付した科目（2科目の合計）を用いる場合は4科目）の成績を用います。

1. 理科cの科目選択方法で，「物理基礎，化学基礎」と「生物」など，異なる名称を付した出題科目を受験した場合。

ア [地理歴史，公民の第1解答科目]

イ [地理歴史，公民の第2解答科目]，[理科の基礎を付した科目]，[理科の基礎を付していない科目]のうち高得点の2科目（理科の基礎を付した科目を用いる場合は3科目）

2. 理科cの科目選択方法で，「物理基礎」と「物理」など，同一名称を付した出題科目を受験した場合。

ア [地理歴史，公民の第1解答科目]

イ [地理歴史，公民の第2解答科目]

ウ [理科の基礎を付した科目]又は[理科の基礎を付していない科目]のどちらか高得点の科目

3. 理科dの科目選択方法で受験した場合。

ア [地理歴史，公民の第1解答科目]

イ [理科dで受験した科目の第1解答科目]

ウ [地理歴史，公民の第2解答科目]又は[理科dで受験した科目の第2解答科目]のどちらか高得点の科目

(注5) 外国語の英語については，「筆記」及び「リスニング」を課します。なお，大学入試センターにおいて英語リスニングを免除された者については，「筆記」のみを課します。

上越教育大学学校教育学部入学資格審査について

5 ページの「3 出願資格 (1)一般入試 ⑧」における個別の入学資格審査は、出願の前に、入学資格認定のための審査を行うものです。

なお、申請手続きは次のとおりですが、**申請には本学所定の用紙等が必要ですので、該当者は事前に本学入試課へ連絡してください。**

1 入学資格審査の対象者

本学の学校教育学部入学のために一般入試の受験を希望し、平成31年3月31日までに18歳に達する者で次のいずれかに該当するものです。

- ① 高等学校段階を有する外国人学校を卒業した者又は卒業見込みの者
- ② 上記①以外の者で、学習歴及び社会での実務経験歴や取得した資格等が高等学校を卒業した者と同等以上であることを客観的に確認できる者

2 申請受付期間

平成31年1月10日（木）～平成31年1月11日（金）【必着】

申請書類を直接本学へ持参する場合の受付時間は、9時から17時までです。申請書類を郵送する場合は、必ず書留速達とし封筒表面に「大学入学資格認定証書交付申請」と朱書してください。なお、受付期限後に到着したものは受理しませんので、郵送日数等を十分に考慮して早めに送付してください。（申請先）

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地
上越教育大学入試課 電話 025-521-3294

3 申請書類

次の書類を揃えて申請してください。

- (1) 「1 入学資格審査の対象者」の①に該当する者

- ① 入学資格認定申請書（本学所定の様式）
- ② 履歴書（本学所定の様式）
- ③ 当該学校の教育が12年の課程であることを証明できるもの
- ④ 当該学校の教育内容等を証明できるもの
- ⑤ 当該学校の卒業証明書又は卒業見込証明書
- ⑥ その他本学が必要と認める書類

- (2) 「1 入学資格審査の対象者」の②に該当する者

- ① 入学資格認定申請書（本学所定の様式）
- ② 履歴書（本学所定の様式）
- ③ 各種の学校などでの学習歴及び社会での実務経験歴や取得した資格等が高等学校卒業と同等以上であることを客観的に確認できる書類（学習歴や実務歴が複数にわたる場合は、そのすべてについて提出してください。）
- ④ その他本学が必要と認める書類

4 入学資格審査の方法

審査は、提出された書類に基づき行います。

「1 入学資格審査の対象者」の①に該当する者については、文部科学大臣が定めた「大学入学資格に係る専修学校高等課程の指定に関する実施要項」の要件を準用し審査します。

「1 入学資格審査の対象者」の②に該当する者については、個人の学習歴、あるいは社会における実務経験歴や取得した資格等に基づき総合的に審査します。

5 入学資格審査の結果通知

平成31年1月25日（金）までに申請者宛に郵送により通知します。また、入学資格を認められた者については、「入学資格認定証書」を交付します。

6 上越教育大学入学者選抜試験の受験

「入学資格認定証書」の交付を受けた者は、本学の一般入試を受験することができます。

出願の際は、必ず「入学資格認定証書」の写しを出願書類として提出してください。

7 留意事項

この入学資格審査は、本学の判断により実施するものであるため、認定の効力は本学のみです。

Ⅲ 出願に当たっての留意事項

- 1 本学では、平成30年度入学者選抜試験から、出願方法を「インターネット出願」に全面移行しました。
これまでの「紙の願書による出願」は行っておりません。(ただし、私費外国人留学生の特別入試及び欠員補充第2次募集は、紙の願書(本学ホームページから様式をダウンロード)での出願となります。)
- 2 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがありますので十分注意してください。
- 3 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。
- 4 **本学の前期日程に出願した者は、他の大学・学部的前期日程には出願できません。**
本学の後期日程に出願した者は、他の大学・学部の後期日程には出願できません。
なお、**本学の前期日程と後期日程との併願は、可能です。**
- 5 国公立大学・学部(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ。)の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合とも)については、1つの大学・学部にも出願することができます。
本学の推薦入試に出願した者は、他の国公立大学・学部の推薦入試には出願できません。
※公立大学協会ホームページ(<http://www.kodaikyo.org/nyushi>)参照
- 6 **国公立大学・学部の推薦入試に出願する者は、前期日程から1つ、後期日程から1つの、合計2つまでの大学・学部にも出願することができます。**ただし、国公立大学・学部の推薦入試合格者又はAO入試合格者は、出願済みの国公立大学・学部の前期日程試験又は後期日程試験を受験しても入学許可は得られません。(当該推薦入試又はAO入試を実施する大学・学部の定める推薦入試又はAO入試の入学辞退手続により入学辞退を許可された場合を除く。)
- 7 本学又は他の国公立大学・学部の前期日程試験に合格し、平成31年3月15日(金)までに入学手続を行った者は、本学の後期日程試験を受験してもその合格者となることはありません。
- 8 受験に関する詳細については、出願書類を提出した者に対して本学の受験票とともに送付する「受験者心得」を参照してください。
なお、本学の受験票及び大学入試センター試験の受験票は、試験当日のほか、入学手続の際にも必要ですので、紛失しないように注意してください。
- 9 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限って、合否及び入学手続き等に関する個人情報(独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学)に送達されます。
- 10 本学が入試を通じて取得した試験成績等の個人情報は、入試のほか、入学後の授業実施計画、学籍管理、入学料等免除の選考、奨学金貸与・給付の選考及び各種統計資料の作成・分析に使用し、これ以外の目的に用いることはありません。
また、個人を特定しない形で統計的な調査に使用場合があります。
- 11 出願書類及び試験成績等の情報のコンピュータ入力については、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者(委託)に委託することがあります。

IV 出願手続

1 出願方法

本学では、入学志願者がインターネットを利用して、専用のサイトから志願者情報を入力して出願できる「**インターネット出願**」に全面移行しました。（平成30年度入学選抜試験から）

これまでの「**紙の願書による出願**」（募集要項に添付の入学志願票等に記入したものを郵送する方法）は行っておりません。（ただし、私費外国人留学生の特別入試及び欠員補充第2次募集は、紙の願書（本学ホームページから様式をダウンロード）での出願となります。）

インターネット出願では、学生募集要項（冊子体）の取り寄せが不要（Webで公開しています）となり、Web入力に際してエラーチェック機能により願書の記入誤りが防げます。また、検定料の支払方法としてコンビニエンスストアやクレジットカード等の利用が可能です。

ご利用にあたってはメールアドレス・パソコン（インターネット接続済）・プリンター（A4出力）が必要です。

インターネット出願において、必要事項の登録及び検定料の支払いを行っただけでは出願手続完了ではありません。出願に必要な書類を郵送する必要があります。出願書類の提出期限をよく確認し、郵送に要する日数を考慮したうえで期限に間に合うよう手続きしてください。

なお、事情によりインターネット出願を利用することができない方は、出願登録期間前に、本学入試課へご連絡ください。

【インターネット出願の流れ】

出願前に募集要項を確認し、必要書類の事前準備をお願いします。

- ・センター試験成績請求票
- ・調査書
- ・顔写真データ（ファイル形式（jpeg, jpg, png, bmp））
- ・推薦書（推薦入試のみ）
- ・自己推薦書（推薦入試のみ）

1 インターネット出願サイトへアクセス

本学入試情報ホームページ

→ <http://www.juen.ac.jp/060admissions/020faculty/index.html> または、

インターネット出願サイト

→ e-apply.jp/e/juen/index.html からアクセス

※ 「インターネット出願登録期間」以外には出願登録はできません。

2 出願期間の確認

	インターネット出願登録期間 及び検定料支払期間	→ 出願書類提出期限
推薦入試	平成30年12月7日（金）10時～ 平成30年12月14日（金）15時まで	平成30年12月14日（金）17時必着
一般入試 （前期日程、 後期日程）	平成31年1月28日（月）10時～ 平成31年2月6日（水）15時まで	平成31年2月6日（水）17時必着

（注）出願書類の提出にあたっては、「6 出願書類の提出」を確認してください。

3 必要事項の登録

- ① 画面の手順や留意事項を必ず確認してください。
- ② 画面に従って出願内容の選択、必要事項を入力してください。
- ③ 検定料の支払い方法を選択してください。
- ④ 支払いに必要な情報（お客様番号、確認番号、支払い期限など）を控えてください。

4 検定料の払込

次のいずれかの方法で支払手続を行ってください。

a クレジットカードの場合

画面に従って、支払手続を行ってください。

b 指定のコンビニエンスストア及びPay-easy (Pay-easy が利用可能な金融機関ATM及びインターネットバンキング) の場合

① 支払方法を選択し、確定後に表示される受付番号等をメモしてください。

② メモした受付番号等を使用し、取扱い店舗で支払手続を行ってください。

※ 検定料のほかに手数料がかかります。

※ お支払い期限は、申込日を含め4日間です。(出願締切が4日より短い場合、締切が優先されます) また、お支払い期限内に入金がない場合、お申し込みは自動的にキャンセルとなりますのでご注意ください。

既納の検定料は返還しません。(ただし、出願受付後に大学入試センター試験受験科目不足等で、出願無資格者と判明した者については、既納の検定料のうち13,000円を本学が定める方法により返還します。)

5 各帳票をプリンターにて印刷

検定料の支払い完了後に受信する「出願手続 検定料支払完了メール」に記載されたURLにアクセスして「web入学志願者名票」等を印刷します。

※ ページの拡大／縮小は「なし」で印刷してください。

6 出願書類の提出

出力した各帳票と他の必要書類(調査書等)を合わせて郵送(書留速達)または直接持参してください。

(注1) 出願書類郵送用封筒は市販の角形2号(縦33cm, 横24cm程度)の封筒に、プリンターで印刷した「封筒貼付用宛名シート」を貼り付けて使用してください。

(注2) 直接持参する場合の受付時間は、9時から17時までです。(土曜日、日曜日を除く。)

(注3) 郵送の場合には、受付期限後に到着したものは受理しませんので、**郵送日数等を十分考慮して「書留速達」で早めに送付してください。**

① 出願書類提出期間

推薦入試	平成30年12月7日(金) ～ 平成30年12月14日(金) (必着)
一般入試 (前期日程, 後期日程)	平成31年1月28日(月) ～ 平成31年2月6日(水) (必着)

(注) 直接持参される場合の受付時間は、いずれも9時から17時までです。(土曜日、日曜日を除く。)

② 出願書類等の提出先

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学入試課

7 出願上の注意

・ 出願内容の登録完了後の変更はできませんので、入力した内容を十分に確認してください。
なお、登録内容に誤りがあった場合は、本学入試課へ連絡してください。

上越教育大学入試課 (電話 025-521-3294)

・ スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末は、閲覧などは可能ですが、推奨環境ではありませんので、一部の端末画面からは正常に表示されない場合もあります。また、印刷をするための印刷機能を必要としますので、パソコンからのご利用をお勧めします。

・ 出願受付完了後は、受験票及び受験者心得を、下記のとおり郵送します。

推薦入試・・・12月下旬

前期日程・・・2月上旬

後期日程・・・2月下旬

2 出願書類等

(1) 全員が提出するもの

書類等	様 式	摘 要
①入学志願票	本 学 所 定	インターネット出願サイトから、手続き完了後に出力すること。
②平成31センター試験成績請求票	大学入試センター所 定	大学入試センターから送付された「平成31センター試験成績請求票」を、上記①の入学志願票の所定の欄に貼り付けること。 推薦入試・・・推薦 国公立推薦入試用 なお、出願までに手もとに到着しなかった場合は、「未着」の旨のメモ書きを「⑧ 出願書類提出用封筒」に入れて出願し、手もとに届き次第、至急「書留速達」で送付すること。 前期日程・・・前 国公立前期日程用 後期日程・・・後 国公立後期日程用
③受験票、写真票 ----- 実技選択科目申込票 (前期日程のみ)	本 学 所 定	インターネット出願サイトから、手続き完了後に出力すること。 写真は、出願前3か月以内に撮影した上半身無帽正面向の写真データを用意し、登録時にアップロードすること。 <u>不鮮明な写真(顔が判別しにくいもの等)は受け付けないので、注意すること。</u>
④調査書※	文部科学省所定	(1) 出身学校長が作成し、厳封したものを提出すること。 (2) 高等学校卒業程度認定試験合格者等は、調査書に代えてその合格成績証明書又はその資格を証明する書類を提出すること。 なお、高等学校等に在学したことのある者は、在学期間中の調査書又は成績証明書を併せて提出すること。 (3) 専修学校高等課程修了者等は、調査書に代えてその成績証明書等を提出すること。
⑤検定料(17,000円)	_____	インターネット出願サイトから、所定の手順により支払手続を行うこと。 9～10ページの「インターネット出願の流れ」の4「検定料の払込」も参照すること。
⑥入学志願者名票	本 学 所 定	インターネット出願サイトから、手続き完了後に出力すること。
⑦通信用封筒	長 形 3 号	インターネット出願サイトから、手続き完了後に「封筒貼付用宛名シート」を出力し、市販の長形3号の封筒(縦24cm, 横12cm程度)に貼り付けること。(封筒には、372円分の切手を貼り付けること。) 推薦入試・・・「(推薦入試) 受験関係書類在中」の表示 前期日程・・・「(前期日程) 受験関係書類在中」の表示 後期日程・・・「(後期日程) 受験関係書類在中」の表示
⑧出願書類提出用封筒	角 形 2 号	インターネット出願サイトから、手続き完了後に「封筒貼付用宛名シート」を出力し、市販の角形2号(縦33cm, 横24cm程度)の封筒に貼り付けること。 出願書類を郵送する場合は、出願書類を含む封筒の重さに応じた切手を貼り、郵送すること。 なお、出願書類を直接持参する場合は、切手は不要となる。

※ 被災その他の事情により、調査書の提出が困難な場合などは、出願前に本学に問い合わせること。

(2) 推薦入試の入学志願者全員が提出するもの

書類等	様 式	摘 要
①推薦書	本 学 所 定	出身学校長が作成し、 厳封 したものを提出すること。 なお、文書作成ソフトで推薦書を作成しても差し支えない。 様式は、本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」からダウンロードすること。
②自己推薦書	本 学 所 定	志願者本人が 自筆又は文書作成ソフト で作成したものを提出すること。 様式は、本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」からダウンロードすること。

(3) 一般入試（前期日程）の入学志願者で、面接に関するもの（提出不要）

書類等	様 式	摘 要
①集団討論のテーマ	本 学 所 定	インターネット出願サイトから、手続き完了後に出力すること。 留意事項を確認すること。
②発表用のメモ用紙	本 学 所 定	インターネット出願サイトから、手続き完了後に出力すること。 発表用のメモとして、自由に記入し、試験当日、試験室への持ち込みを可とする。

(4) 一般入試（前期日程、後期日程）の入学志願者で、該当する者が提出するもの

書類等	該 当 す る 者	摘 要
①入学資格認定証書の写し	出願資格のうち、 ⑧に基づいて出願する者 (5ページ参照)	本学の個別の入学資格審査を受けて入学資格を認定された者が出願する場合は、入学資格認定証書の写しを提出すること。

V 受験上又は修学上の配慮を必要とする入学志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、下表に該当する障害等があることにより、**受験上**又は**修学上**の配慮を必要とする場合は、下記の期日までに本学に申し出てください。

また、日常生活で使用している補聴器、松葉杖及び車椅子等を使用して受験する場合も申し出てください。

※ 受験上の配慮は必要としない場合でも、修学上の配慮を必要とする者は、必ず申し出てください。

（申し出を必要とする一例：高校在学時に、体育の授業等で特別な配慮を受けており、大学での授業においても引き続き特別な配慮を必要とする者）

申出の時期

- | | | |
|----------------|---|-----------------|
| ・推薦入試 | } | 平成30年11月9日(金)まで |
| ・私費外国人留学生の特別入試 | | |
| ・一般入試 | | |

※ 期日以降に発生した不慮の事故等により、受験上又は修学上の配慮を必要とする場合は、速やかに本学入試課まで連絡してください。

相談の方法

相談申請書（本学所定のもの。本学ホームページからダウンロードできます。）に医師の診断書等必要書類を添付して提出することとし、必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る学校関係者等との面談等を行います。

◆連絡先

上越教育大学入試課

電話 025-521-3294

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

区 分	障 害 の 程 度
視 覚 障 害	・点字による教育を受けている者 ・良い方の眼の矯正視力が0.15以下の者 ・両眼による視野について視能率による損失率が90%以上の者 ・上記以外の視覚障害者
聴 覚 障 害	・両耳の平均聴力レベルが60デシベル以上の者 ・上記以外の聴覚障害者
肢体不自由	・体幹の機能障害により座位を保つことができない者又は困難な者 ・両上肢の機能障害が著しい者 ・上記以外の肢体不自由者
病 弱	・慢性の呼吸器疾患、心臓疾患、腎臓疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
発 達 障 害	・自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害のため配慮を必要とする者
そ の 他	・上記以外で、受験上又は修学上の配慮を必要とする者

Ⅵ 一般入試

前期日程

募集人員

77人

入試方法

- 1 大学入試センター試験（5教科7科目又は6教科7科目（理科において「基礎を付した科目」を選択する場合は、5教科8科目又は6教科8科目））及び実技検査等の成績並びに面接の評価結果を総合して、入学者を選抜します。
- 2 **実技検査等**は、次によるものとします。
 - (1) **小論文**
 思考力・実践力を評価するため、小論文を課します。
 【思考力】物事を多面的かつ論理的に考察することができ、自分の考えを適切な方法で表現し、他者に伝えることができる。
 【実践力】生活や社会、環境の中に問題を見出し、多様な人々と関わりながら、課題を解決していくことができる。
 - (2) **実技検査**
 基礎力を評価するため、実技検査（音楽・美術・体育のうちから1科目を選択）を課します。
 【基礎力】教員を目指すために十分な幅広い基礎学力を修得している。
 音楽・・・音楽表現の基礎的能力と適性をみます。
 美術・・・造形表現の基礎的能力と適性をみます。
 体育・・・運動の基礎的能力と適性をみます。
- 3 **面接**では、思考力・実践力を評価するため、集団面接試験を行います。
 【思考力】物事を多面的かつ論理的に考察することができ、自分の考えを適切な方法で表現し、他者に伝えることができる。
 【実践力】生活や社会、環境の中に問題を見出し、多様な人々と関わりながら、課題を解決していくことができる。
- 4 **面接**は、次によるものとします。
 - ア 面接形式は、受験者5人程度の集団面接とします。
 - イ 面接は、3人の面接担当者で行います。
 - ウ 個別質問、プレゼンテーション、集団討論を行います。
 - エ 面接は、調査書の内容を併せて総合的に評価します。

試験の日程

実施日	時間	試験科目
平成31年2月25日（月）	9：00～10：00	小論文
	10：30～12：30	面接
	13：30～15：30	面接
	13：30～17：00	実技検査（音楽）
	13：30～15：30	実技検査（美術）
	13：30～17：00	実技検査（体育）

（注）実技検査のうち音楽及び体育は、個人検査のため志願者数によって時間を延長することがあります。

試 験 場

上越教育大学

所在地：新潟県上越市山屋敷町 1 番地

試 験 の 実 施 方 法

試 験 科 目		実 施 方 法
小 論 文 (全員に課す。)		文章(資料, 図, 表等を示すことがある。)を読み, その内容に関し800字以内で論述する。
面 接 (全員に課す。)		個別質問, プレゼンテーション, 集団討論を行う。 プレゼンテーション, 集団討論では, あらかじめ提示する討論テーマについて, 1人2分から3分で意見を発表した後, それを踏まえてグループ全体で討論する。 集団討論のテーマ及び面接実施方法の詳細については, インターネット出願時(10ページ「IV 出願手続」の「1 出願方法」の5)で印刷する帳票)に提示する。
実技検査 (音楽, 美術, 体育のうちから1科目を選択する。)	音 楽	＜基礎音楽能力テスト＞ 音程感やリズム感を含む総合的能力をみる。 ①聴いたリズムを打つ。 ②ピアノの音を聴いて, それと同じ高さの声を出す。 ③簡単な旋律の楽譜を見て歌う。
	美 術	＜造形表現テスト＞ 構成する力, 素材への積極的なかかわり, 描画する力を含む総合的な表現力をみる。 ○与えられた複数の描画対象物を自由に配置し, 鉛筆により描画する。 (描画対象物は, 野菜や果物などの自然物, 日用品などの人工物を配付する。 出題例: りんご, れんが, ロープなど)
	体 育	＜運動能力テスト＞ 敏捷性, 脚筋力, 調整力及び柔軟性を含む総合的な運動の基礎的能力を次の3種目でみる。 ①反復横とび ②立ち三段跳び※ ③長座体前屈 ※ 両足を揃えた立位姿勢から, 右足, 左足(または左足, 右足)と接地し, 3歩目に両足で着地する跳躍運動

配 点 等

1 配 点

大学入試センター試験と実技検査等の配点比率は、5：1とします。

配点内訳は、次のとおりです。なお、地理歴史、公民及び理科の配点は、合計300点とします。

大学入試センター試験							実 技 検 査 等			面接
国語	地理歴史	公民	理科	数学	外国語	計	小論文	実技	計	
200	100又は200		100 又は200	200	200	900	90	90	180	段階評価 とする

(注1) 外国語の英語については、筆記(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を200点満点に換算します。

(注2) 英語リスニングを免除された者については、筆記(200点満点)の得点のみを英語の得点とします。

2 合否判定

大学入試センター試験、小論文及び実技検査の成績並びに面接の評価結果を総合し、成績の上位から合格者を決定します。

合 格 者 の 発 表

平成31年3月8日(金)

合格者には、合格通知書及び入学手続に必要な書類等を送付します。

また、合格発表日の正午(予定)から約1週間、本学のホームページ(<http://www.juen.ac.jp/>)上で、合格者の受験番号を掲載します。なお、これは、情報提供の一環として行うものであり、その安全性を保障することはできませんので、必ず合格通知書で確認してください。

(注) 合否に関しての電話等による問い合わせには、一切応じません。

入 学 手 続

合格者は、次により入学手続を行ってください。

1 入学手続期間

平成31年3月13日(水)から平成31年3月15日(金)までです。【必着】

(注) ① 直接持参する場合の受付時間は、8時30分から17時15分までです。

② 郵送する場合は、書留速達とし、3月15日(金)17時15分までに本学に必ず着くよう郵送日数等を十分考慮して早めに送付してください。

なお、合格者発表日(3月8日(金))から入学手続の最終日(3月15日(金))までの期間が短いので、できるだけ入学手続書類を持参することとし、「3 納付金・提出書類等」の(1)から(3)までのものを前もって用意しておいてください。

2 入学手続場所

上越教育大学 教育支援課教務支援チーム(教務情報担当) 電話 025-521-3278

3 納付金・提出書類等

(1) 入学料 282,000円

(2) 本学の受験票及び平成31年度大学入試センター試験受験票

(3) 写真3枚(上半身無帽正面向 縦4cm×横3cm)

- (4) その他入学手続に必要な書類等（合格通知書送付時に同封する入学手続関係書類等を参照してください。）

- (注) ① 前期分の授業料については、平成31年4月以降に代行納付（口座振替）による納付となります。
 なお、授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができます。
- | | | |
|-----|------|-----------|
| 授業料 | 前期分 | 267,900円 |
| | [年額] | 535,800円] |
- ② 入学料及び授業料の金額は、平成30年度入学者用の金額であり、今後改定される場合があります。
 ③ 入学料及び授業料は免除の制度があります。「大学案内（CAMPUS GUIDEBOOK）」を参照してください。
 ④ 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

4 留意事項

- (1) 入学手続の際、「平成31年度大学入試センター試験受験票」に大学名等を押印したものを、入学手続完了済証とします。
 (2) 平成31年3月15日(金)までに入学手続を完了しなかった者は、入学辞退者として取り扱います。
 (3) 本学へ入学手続を完了した者は、これを辞退して他の国公立大学・学部へ入学手続を行うことはできません。
 (4) 他の国公立大学・学部へ入学手続を完了した者は、これを辞退して本学へ入学手続を行うことはできません。
 (5) **入学手続後においては、既納の入学料は、いかなる理由があっても返還しません。**

そ の 他

- 1 **試験当日は、必ず本学発行の「受験票」及び大学入試センター発行の「平成31年度大学入試センター試験受験票」を持参してください。**
- 2 受験のための宿泊施設のあっせんは行っていません。

後 期 日 程

募 集 人 員

33人

入 試 方 法

- 1 大学入試センター試験（5教科7科目又は6教科7科目（理科において「基礎を付した科目」を選択する場合は、5教科8科目又は6教科8科目））の成績及び面接の評価結果を総合して入学者を選抜します。
- 2 **面接**では、特に学び続ける力と人間力に優れた学生を選抜するため、主に教職への強い関心・意欲と人間性を高めようとする意志に関して質問する個別面接試験を行います。
【学び続ける力】 教員を目指す強い意志を持ち、積極的に学修を進めていくことができる。
【人間力】 自分らしい生き方を教職との関係において追究し、人格及び感性を高めていこうとする態度を備えている。
- 3 **面接**は、次によるものとします。
 ア 面接形式は、個別面接とします。
 イ 面接は、3人の面接担当者で行います。
 ウ 面接は、調査書の内容を併せて総合的に評価します。

試 験 の 日 程

実 施 日	時 間	試 験 科 目
平成31年3月12日（火）	9：00～17：00（予定）	面 接

試 験 場

上越教育大学

所在地：新潟県上越市山屋敷町1番地

配 点 等

1 配 点

大学入試センター試験の配点内訳と面接の評価は、次のとおりです。なお、地理歴史、公民及び理科の配点は、合計300点とします。

大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験							面 接
国 語	地理歴史	公 民	理 科	数 学	外国語	計	
200	100又は200		100 又は200	200	200	900	段階評価とする

（注1）外国語の英語については、筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に換算します。

（注2）英語リスニングを免除された者については、筆記（200点満点）の得点のみを英語の得点とします。

2 合否判定

大学入試センター試験の成績及び面接の評価結果を総合し、成績の上位から合格者を決定します。

合格者の発表

平成31年3月22日(金)

合格者には、合格通知書及び入学手続に必要な書類等を送付します。

また、合格発表日の正午(予定)から約1週間、本学のホームページ(<http://www.juen.ac.jp/>)上で、合格者の受験番号を掲載します。なお、これは、情報提供の一環として行うものであり、その安全性を保障することはできませんので、必ず合格通知書で確認してください。

(注) 合否に関しての電話等による問い合わせには、一切応じません。

入学手続

合格者は、次により入学手続を行ってください。

1 入学手続期間

平成31年3月25日(月)から平成31年3月27日(水)までです。【必着】

(注) ① 直接持参する場合の受付時間は、8時30分から17時15分までです。

② 郵送する場合は、書留速達とし、3月27日(水)17時15分までに本学に必ず着くよう郵送日数等を十分考慮して早めに送付してください。

なお、合格者発表日(3月22日(金))から入学手続の最終日(3月27日(水))までの期間が短いので、できるだけ入学手続書類を持参することとし、「3 納付金・提出書類等」の(1)から(3)までのものを前もって用意しておいてください。

2 入学手続場所

上越教育大学 教育支援課教務支援チーム(教務情報担当) 電話 025-521-3278

3 納付金・提出書類等

(1) 入学料 282,000円

(2) 本学の受験票及び平成31年度大学入試センター試験受験票

(3) 写真3枚(上半身無帽正面向 縦4cm×横3cm)

(4) その他入学手続に必要な書類等(合格通知書送付時に同封する入学手続関係書類等を参照してください。)

(注)

① 前期分の授業料については、平成31年4月以降に代行納付(口座振替)による納付となります。

なお、授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができます。

授業料 前期分 267,900円

[年額 535,800円]

② 入学料及び授業料の金額は、平成30年度入学者用の金額であり、今後改定される場合があります。

③ 入学料及び授業料は免除の制度があります。「大学案内(CAMPUS GUIDEBOOK)」を参照してください。

④ 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

4 留意事項

- (1) 入学手続の際、「平成31年度大学入試センター試験受験票」に大学名等を押印したものを、入学手続完了済証とします。
- (2) 平成31年3月27日(水)までに入学手続を完了しなかった者は、入学辞退者として取り扱います。
- (3) 本学へ入学手続を完了した者は、これを辞退して他の国公立大学・学部へ入学手続を行うことはできません。
- (4) 他の国公立大学・学部へ入学手続を完了した者は、これを辞退して本学へ入学手続を行うことはできません。
- (5) **入学手続後においては、既納の入学料は、いかなる理由があっても返還しません。**

そ の 他

- 1 試験当日は、必ず本学発行の「受験票」及び大学入試センター発行の「平成31年度大学入試センター試験受験票」を持参してください。
- 2 受験のための宿泊施設のあっせんは行っていません。

追 加 合 格

平成31年3月27日(水)を過ぎて、なお**入学定員に欠員が生じた場合**には、追加合格を次により行います。

追 加 合 格 者 へ の 通 知 等

1 追加合格者への通知

追加合格者には、平成31年3月28日(木)から平成31年3月31日(日)までの間に入学志願票の連絡先(志願者)あてに電話で連絡するとともに「電子郵便」で通知します。

上記期間中は、必ず本人と直接連絡ができるようにしておいてください。

なお、追加合格者の受験番号の発表は行いません。

2 入学の意志確認

通知を受けた者は、入学の意志確認のため、本学が指定する期日までに次の番号に電話で連絡してください。

電 話 025-521-3294 (上越教育大学入試課)

入 学 手 続

入学する意志表示をした追加合格者は、次により入学手続を行ってください。

1 入学手続期間

平成31年3月29日(金)から平成31年3月31日(日)までです。

受付時間等の詳細については、追加合格者あての「電子郵便」で連絡します。

なお、**入学手続は本人が直接大学に来て行ってください。**

2 入学手続場所

上越教育大学 教育支援課教務支援チーム(教務情報担当) 電話 025-521-3278

3 納付金・提出書類等

入学手続当日は、次の(1)から(3)までのものを必ず持参してください。その他入学手続に必要な書類等は、入学手続当日に配付します。

(1) 入学料 282,000円

(2) 本学の受験票及び平成31年度大学入試センター試験受験票

(3) 写真3枚 (上半身無帽正面向 縦4cm×横3cm)

(注)

① 前期分の授業料については、平成31年4月以降に代行納付（口座振替）による納付となります。

なお、授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができます。

授業料 前期分 267,900円

[年額 535,800円]

② 入学料及び授業料の金額は、平成30年度入学者用の金額であり、今後改定される場合があります。

③ 入学料及び授業料は免除の制度があります。「大学案内（CAMPUS GUIDEBOOK）」を参照してください。

④ 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

4 留意事項

- (1) 入学手続の際、「平成31年度大学入試センター試験受験票」に大学名等を押印したものを、入学手続完了済証とします。
- (2) 平成31年3月31日(日)までに入学手続を完了しなかった者は、入学辞退者として取り扱いいます。
- (3) 本学へ入学手続を完了した者は、これを辞退して他の国公立大学・学部へ入学手続を行うことはできません。
- (4) 他の国公立大学・学部へ入学手続を完了した者は、これを辞退して本学へ入学手続を行うことはできません。
- (5) **入学手続後においては、既納の入学料は、いかなる理由があっても返還しません。**

Ⅶ 推薦入試

募 集 人 員

50人

推 薦 要 件

平成29年4月から平成30年3月までに高等学校等を卒業（修了）又は平成31年3月高等学校等を卒業（修了）見込みの者（5ページの「3 出願資格(2)」参照）で、次の①から③までのすべてに該当し、かつ、合格した場合は、必ず本学に入学することを確認できる者です。なお、各出身学校長が推薦できる人数の制限はありません。

- ① 出身学校長が、初等教育教員になるためにふさわしい意欲、資質、能力、適性等を有する者として、責任をもって推薦する者
 - ② 平成31年度大学入試センター試験（5教科7科目又は6教科7科目（理科において「基礎を付した科目」を選択する場合は、5教科8科目又は6教科8科目））を受験する者
 - ③ 調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者
- （注） 上記の推薦要件に該当しない者については、出願書類を受理しません。

入 試 方 法

- 1 出身学校長の推薦に基づき、面接及び大学入試センター試験（5教科7科目又は6教科7科目（理科において「基礎を付した科目」を選択する場合は、5教科8科目又は6教科8科目））の成績により、入学者を選抜します。
- 2 **面接**では、特に実践力と人間力に優れた学生を選抜するため、高等学校等の段階での経験・活動実績を踏まえて総合的に質問します。
【実践力】生活や社会、環境の中に問題を見出し、多様な人々と関わりながら、課題を解決していくことができる。
【人間力】自分らしい生き方を教職との関係において追究し、人格及び感性を高めていこうとする態度を備えている。
- 3 **面接**は、次によるものとします。
ア 面接形式は、個別面接とします。
イ 面接は、3人の面接担当者で行います。
ウ 面接は、推薦書、自己推薦書及び調査書の内容を併せて総合的に評価します。
- 4 合格者の判定は、全受験者を一括して行います。

試 験 の 日 程

実 施 日	時 間	試 験 科 目
平成31年2月1日（金）	9：00～17：00（予定）	面 接

試 験 場

上越教育大学

所在地：新潟県上越市山屋敷町1番地

配 点 等

1 配 点

大学入試センター試験と面接の配点比率は、10：3とします。

配点内訳は、次のとおりです。なお、地理歴史、公民及び理科の配点は、合計300点とします。

大学入試センター試験							面接
国語	地理歴史	公民	理科	数学	外国語	計	
200	100又は200		100 又は200	200	200	900	270

(注1) 外国語の英語については、筆記(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を200点満点に換算します。

(注2) 英語リスニングを免除された者については、筆記(200点満点)の得点のみを英語の得点とします。

2 合否判定

面接及び大学入試センター試験の成績を総合し、成績の上位から合格者を決定します。

なお、面接の成績が配点の50%未満の場合には、合格者としません。

合 格 者 の 発 表

平成31年2月13日(水)

受験者及び出身学校長あてに合否の通知を行い、合格者には入学手続に必要な書類等を送付します。

また、合格発表日の正午(予定)から約1週間、本学のホームページ(<http://www.juen.ac.jp/>)上で、合格者の受験番号を掲載します。なお、これは、情報提供の一環として行うものであり、その安全性を保障することはできませんので、必ず合格通知書で確認してください。

(注) 合否に関する電話等による問い合わせには、一切応じません。

入 学 手 続

合格者は、次により入学手続を行ってください。

1 入学手続期間

平成31年2月17日(日)から平成31年2月19日(火)までです。【必着】

(注) ① 直接持参する場合の受付時間は、8時30分から17時15分までです。

② 郵送する場合は、書留速達とし、2月19日(火)17時15分までに本学に必ず着くよう郵送日数等を十分考慮して早めに送付してください。

なお、合格者発表日(2月13日(水))から入学手続の最終日(2月19日(火))までの期間が短いので、できるだけ入学手続書類を持参することとし、「3 納付金・提出書類等」の(1)から(3)までのものを前もって用意しておいてください。

2 入学手続場所

上越教育大学 教育支援課教務支援チーム(教務情報担当) 電話 025-521-3278

3 納付金・提出書類等

(1) 入学料 282,000円

(2) 本学の受験票及び平成31年度大学入試センター試験受験票

(3) 写真3枚(上半身無帽正面向 縦4cm×横3cm)

(4) その他入学手続に必要な書類等(合格通知書送付時に同封する入学手続関係書類等を参照してください。)

(注)

① 前期分の授業料については、平成31年4月以降に代行納付（口座振替）による納付となります。

なお、授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができます。

授業料 前期分 267,900円

[年額 535,800円]

② 入学料及び授業料の金額は、平成30年度入学者用の金額であり、今後改定される場合があります。

③ 入学料及び授業料は免除の制度があります。「大学案内（CAMPUS GUIDEBOOK）」を参照してください。

④ 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

4 留意事項

- (1) 入学手続の際、「平成31年度大学入試センター試験受験票」に大学名等を押印したものを、入学手続完了済証とします。
- (2) 推薦入試の合格者は、他の国公立大学・学部を受験しても入学許可は得られないので注意してください。ただし、次項の「入学辞退手続」により本学への入学辞退について学長の許可を得た者は、この限りではありません。
- (3) 平成31年2月19日(火)までに入学手続を完了しなかった者は、入学辞退者として扱います。この場合も、他の国公立大学・学部を受験しても入学許可は得られないので注意してください。
- (4) 国公立大学の一般選抜における合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限って、推薦入試の合格及び入学手続き等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。
- (5) **入学手続後においては、既納の入学料は、いかなる理由があっても返還しません。**

入学辞退手続

推薦入試の合格者が特別の事情により本学に入学することが困難となった場合には、**当該者を推薦した出身学校長が「推薦入学辞退願」（本学所定のもの）を平成31年2月19日(火)16時までに本学に提出し、本学学長の許可を得なければなりません。**

提出先：上越教育大学 教育支援課教務支援チーム(教務情報担当) 電話 025-521-3278

その他

- 1 **試験当日は、必ず本学発行の「受験票」及び大学入試センター発行の「平成31年度大学入試センター試験受験票」を持参してください。**
- 2 受験のための宿泊施設のあっせんは行っていません。

VIII 欠員補充第2次募集

平成31年3月31日(日)の時点において入学定員に欠員が生じた場合に、欠員補充第2次募集を行います。

募 集 人 員

入学定員に欠員が生じた人員

出 願 資 格

次の①から⑩までのいずれかに該当し、平成31年度大学入試センター試験（5教科7科目又は6教科7科目（理科において「基礎を付した科目」を選択する場合は、5教科8科目又は6教科8科目））を受験した者で、かつ、次の⑨又は⑩のいずれかに該当する者です。

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
 - ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
 - ③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - ⑥ 文部科学大臣の指定した者（昭和23年文部省告示第47号）
 - ⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
 - ⑧ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの（これにより出願する場合の手続きは、7ページを参照してください。）
 - ⑨ 平成31年3月24日(日)の時点で、いずれの国公立大学・学部にも合格していない者（いずれの国公立大学・学部にも出願していない者を含む。）
 - ⑩ 平成31年3月24日(日)の時点で、国公立大学・学部合格していたが、欠員補充第2次募集出願時において、いずれの国公立大学・学部にも入学手続を行っていない者
- （注） 3月中に出願受付を行う他の国公立大学・学部の第2次募集に出願した者も出願できます。ただし、本学の欠員補充第2次募集に出願後、他の国公立大学・学部へ入学手続を行った場合は、受験しても入学許可は得られません。

出 願 書 類

1 全員が提出するもの

書 類 等	様 式	摘 要
1 入学志願票	本 学 所 定	本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」から、所定の様式をダウンロードし、作成すること。
2 平成31年度大学入試センター試験受験票の写し	大学入試センター所定	出願受付に際して、大学入試センター発行の「平成31年度大学入試センター試験受験票」の「写し」を1部提出すること。

書 類 等		様 式	摘 要
3	受験票・写真票	本 学 所 定	本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」から、所定の様式をダウンロードし、作成すること。 裏面に氏名を書いた写真（縦4cm×横3cm上半身無帽正面向のもので、出願前3か月以内に撮影したもの）を貼り付けること。
4	調査書※	文部科学省 所定	(1) 出身学校長が作成し、厳封したものを提出すること。 (2) 高等学校卒業程度認定試験合格者等は、調査書に代えてその合格成績証明書又はその資格を証明する書類を提出すること。なお、高等学校等に在学したことのある者は、在学期間中の調査書又は成績証明書を併せて提出すること。 (3) 専修学校高等課程修了者等は、調査書に代えてその成績証明書等を提出すること。 (4) 調査書、合格成績証明書及び成績証明書等は、出願手続の際に持参すること。
5	検定料（17,000円）	金 融 機 関 所 定	本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」で「検定料の払込方法」を参照の上、払い込み、これを証明できるもの（振込受付書 等）を入学志願票に添付すること。 既納の検定料は返還しない。（ただし、出願受付後に大学入試センター試験受験科目不足等で、出願無資格者と判明した者については、既納の検定料のうち13,000円を本学が定める方法により返還する。）
6	志願者名票	本 学 所 定	本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」から、所定の様式をダウンロードし、作成すること。

※ 被災その他の事情により、調査書の提出が困難な場合などは、出願前に本学に問い合わせること。

2 該当する者が提出するもの

書 類 等	該 当 す る 者	摘 要
入学資格認定証書の写し	出願資格のうち、⑧に基づいて出願する者（26ページ参照）	本学の個別の入学資格審査を受けて入学資格を認定された者が出願する場合は、入学資格認定証書の写しを提出すること。

入 試 方 法

大学入試センター試験（5教科7科目又は6教科7科目（理科において「基礎を付した科目」を選択する場合は、5教科8科目又は6教科8科目））の成績及び調査書の内容を総合して、入学者を選抜します。

欠員補充第2次募集の公表

- 1 欠員補充第2次募集の実施の有無については、平成31年4月1日（月）正午頃、本学のホームページ(<http://www.juen.ac.jp/>)で公表します。

なお、実施する場合には「欠員補充第2次学生募集要項」を発表する予定ですので、注意してください。

- 2 出願方法、合格者の発表、入学手続、その他必要な事項については、実施する場合に発表する「欠員補充第2次学生募集要項」を参照してください。

Ⅸ 私費外国人留学生の特別入試

募 集 人 員

若干人

出 願 資 格

次の①から③までのすべてに該当し、かつ、独立行政法人日本学生支援機構が平成30年（2018年）に実施する「日本留学試験」及びETS（Educational Testing Service）が平成29年（2017年）1月以降に実施する「TOEFL（Test of English as a Foreign Language）」を受験し、その成績を証明できる者です。

- ① 日本国籍を有しない者（日本国永住許可を得ている者を除く。）
- ② 次のいずれかに該当する者
 - ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者若しくは平成31年（2019年）3月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - イ 国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、ジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベルなど、外国の大学入学資格を有する者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
 - ウ 国際的な評価団体（WASC、ACSI、CIS）の認定を受けた外国人学校の12年の課程を修了した者又は修了見込みの者で平成31年（2019年）3月31日までに18歳に達するもの
- ③ 出入国管理及び難民認定法に定める在留資格「留学」を有する者又は入学までに在留資格「留学」を取得できる見込みの者

※ 日本留学試験で受験を要する教科・科目等は次のとおりです。

- (1) 受験を要する教科・科目

- ① 日本語
- ② 理科又は総合科目のいずれか
- ③ 数学

注1 「理科」は物理・化学・生物からいずれか2科目を受験してください。

2 「数学」はコース1、コース2のいずれかを受験してください。

- (2) 出題言語

日本語を選択してください。英語による出題を選択することは認めません。

- (3) 利用する試験

平成30年（2018年）の6月及び11月に実施された試験の成績を利用するので、いずれかを受験してください。

出 願 書 類

1 全員が提出するもの

書 類 等		様 式	摘 要
1	入学志願票	本 学 所 定	本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」から、所定の様式をダウンロードし、作成すること。
2	受験票・写真票	本 学 所 定	本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」から、所定の様式をダウンロードし、作成すること。 裏面に氏名を書いた写真（縦4cm×横3cm上半身無帽正面向のもので、出願前3か月以内に撮影したもの）を貼り付けること。
3	修了証明書	———	最終学校の修了証明書（ただし、日本の大学に入学するための準備教育を行うための課程を修了又は修了見込みの者は、その証明書も提出すること。） なお、国際バカロレア資格等を取得した者は、授与機関事務局等から授与された資格証書の写しとする。
4	成績証明書	———	最終学校の成績証明書（ただし、日本の大学に入学するための準備教育を行うための課程を修了又は修了見込みの者は、その成績証明書も提出すること。） なお、国際バカロレア資格等を取得した者は、その最終試験の成績証明書等とする。
5	日本留学試験の受験票の写し	独立行政法人日本学生支援機構所定	出願受付に際して、独立行政法人日本学生支援機構発行の「平成30年度（2018年度）第1回日本留学試験受験票」又は「平成30年度（2018年度）第2回日本留学試験受験票」のいずれかの「写し」を1部提出すること。
6	TOEFLのスコアの写し	E T S 所 定	TOEFLのスコアの写しを、他の出願書類と一緒に提出すること。 なお、原本を試験当日必ず持参すること。 また、これ以外にE T S（Educational Testing Service）から本学に直送されたスコアは受け付けないので注意すること。
7	検定料（17,000円）	金 融 機 関 所 定	本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」で「検定料の払込方法」を参照の上、払い込み、これを証明できるもの（振込受付書 等）を入学志願票に添付すること。 受付後においては、既納の検定料は、いかなる理由があっても返還しない。
8	志願者名票	本 学 所 定	本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」の「出願書類関係」から、所定の様式をダウンロードし、作成すること。
9	通信用封筒	長 形 3 号	市販の長形3号の封筒（縦24cm，横12cm程度）に、372円分の切手を貼り付け，郵便番号，住所，氏名を明記すること。
10	出願書類提出用封筒	角 形 2 号	市販の角形2号の封筒（縦33cm，横24cm程度）に、出願書類を含む封筒の重さに応じた切手を貼り、「書留速達」で郵送すること。 なお、出願書類を直接持参する場合は、切手は不要となる。

特私
別費
入外
試国
人

2 該当する者が提出するもの

書 類 等	該 当 す る 者	摘 要
住民票の写し等	日本に在住する者	日本に在住する者は、次のいずれかの証明書等を提出すること。 ア 住民票の写し イ 在留カードの写し（在留資格・在留期間を明記したもの） ウ 入国査証の写し（記載事項のあるすべてのページ）

3 出願書類のうち、日本語以外で記載された証明書、文書等には、すべて日本語訳を添付してください。

出 願 方 法

入学志願者は、出願書類を取りそろえて、出願期間内に提出してください。
 なお、出願書類に不備がある場合には、受理しないことがありますので十分注意してください。

受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。また、変更も認めません。

1 出願期間

平成30年12月3日(月)から平成30年12月7日(金)までです。【12月7日(金) 17時までに
本学に必着】

(注) ① 直接持参する場合の受付時間は、9時から17時までです。

② 郵送の場合には、受付期限後に到着したものは受理しませんので、**郵送日数等を十分考慮して「書留速達」で早めに送付してください。**

2 検定料の払込方法

(1) **払込期間** 平成30年12月3日(月)から平成30年12月7日(金)までです。

(2) **払込方法（場所）**

本学ホームページ「入試情報／学校教育学部」で「検定料の払込方法」を参照の上、金融機関の**受付窓口**で払い込みをしてください。

(3) **留意事項**

払い込みを証明できるもの（振込受付書 等）を入学志願票に添付し、提出してください。添付していない場合、出願書類を受理することができません。

3 出願書類の提出先

〒943-8512

新潟県上越市山屋敷町1番地

上越教育大学 入試課

電話 025-521-3294

4 受験票等の送付

受験票及び受験者心得を、1月上旬に送付します。

入 試 方 法

- 1 独立行政法人日本学生支援機構が平成30年(2018年)に実施する「日本留学試験」, E T S (Educational Testing Service) が平成29年(2017年)1月以降に実施する「T O E F L (Test of English as a Foreign Language)」及び最終学校の成績並びに本学の実施する小論文, 面接を総合して, 入学者を選抜します。
- 2 **小論文**及び**面接**においては, 初等教育教員になるためにふさわしい意欲, 資質, 能力, 適性等をみます。

入 試 期 日 及 び 試 験 場

- 1 **入試期日** 平成31年(2019年)2月1日(金)
- 2 **試験場** 上越教育大学
所在地: 新潟県上越市山屋敷町1番地

合 格 者 の 発 表

平成31年2月13日(水)

合格者には, 合格通知書及び入学手続に必要な書類等を送付します。

また, 合格発表日の正午(予定)から約1週間, 本学のホームページ(<http://www.juen.ac.jp/>)上で, 合格者の受験番号を掲載します。なお, これは, 情報提供の一環として行うものであり, その安全性を保障することはできませんので, 必ず合格通知書で確認してください。

(注) 可否に関しての電話等による問い合わせには, 一切応じません。

入 学 手 続

合格者は, 次により入学手続を行ってください。

1 入学手続期間

平成31年2月17日(日)から平成31年2月19日(火)までです。【必着】

(注) ① 直接持参する場合の受付時間は, 8時30分から17時15分までです。

② 郵送する場合は, 書留速達とし, 2月19日(火)17時15分までに本学に必ず着くよう郵送日数等を十分考慮して早めに送付してください。

なお, 合格者発表日(2月13日(水))から入学手続の最終日(2月19日(火))までの期間が短いので, できるだけ入学手続書類を持参することとし, 「3 納付金・提出書類等」の(1)から(3)までのものを前もって用意しておいてください。

2 入学手続場所

上越教育大学 教育支援課教務支援チーム(教務情報担当) 電話 025-521-3278

3 納付金・提出書類等

(1) 入学料 282,000円

(2) 本学の受験票並びに平成30年度(2018年度)第1回日本留学試験受験票又は平成30年度(2018年度)第2回日本留学試験受験票

(3) 写真3枚(上半身無帽正面向 縦4cm×横3cm)

- (4) その他入学手続に必要な書類等（合格通知書送付時に同封する入学手続関係書類等を参照してください。）

- (注) ① 前期分の授業料については、平成31年4月以降に代行納付（口座振替）による納付となります。
- なお、授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができます。
- | | | |
|-----|------|-----------|
| 授業料 | 前期分 | 267,900円 |
| | [年額] | 535,800円] |
- ② 入学料及び授業料の金額は、平成30年度入学者用の金額であり、今後改定される場合があります。
- ③ 入学料及び授業料は免除の制度があります。「大学案内（CAMPUS GUIDEBOOK）」を参照してください。
- ④ 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

4 留意事項

- (1) 入学手続の際、「平成30年度（2018年度）第1回日本留学試験受験票」又は「平成30年度（2018年度）第2回日本留学試験受験票」（出願書類として提出したものの原本）に大学名等を押印したものを、入学手続完了済証とします。
- (2) 平成31年2月19日（火）までに入学手続を完了しなかった者は、入学辞退者として取り扱います。
- (3) **入学手続後においては、既納の入学料は、いかなる理由があっても返還しません。**

そ の 他

- 1 試験当日は、必ず本学発行の「受験票」並びに独立行政法人日本学生支援機構発行の「平成30年度（2018年度）第1回日本留学試験受験票」又は「平成30年度（2018年度）第2回日本留学試験受験票」（出願書類として提出したものの原本）を必ず持参してください。
- また、ETS（Educational Testing Service）発行の「TOEFLのスコア」（出願書類として提出したものの原本）も必ず持参してください。
- 2 受験のための宿泊施設のあっせんは行っていません。

X そ の 他

大規模災害で被災した志願者への検定料等免除

上越教育大学では、東日本大震災、長野県北部地震、福島第一原子力発電所の事故、熊本地震、平成30年7月豪雨又は平成30年北海道胆振東部地震で被災した方の進学機会の確保を図る観点から、平成31年度学校教育学部入学試験の実施に当たり、下記のとおり特別措置を実施します。

記

1 特別措置の内容

平成31年度上越教育大学学校教育学部入学試験（一般入試（前期・後期）及び推薦入試）に係る検定料（17,000円）の全額免除、入学料及び授業料の全額又は半額の免除

2 免除の対象者

(1) 東日本大震災、長野県北部地震、熊本地震、平成30年7月豪雨又は平成30年北海道胆振東部地震における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、以下のいずれかに該当する者

① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合

② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

(2) 居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域及び避難指示解除準備区域に指定された者

3 免除方法

検定料の免除については、出願後の申請により還付します。

したがって、出願時には、必ず検定料の払込が必要となります。

入学料及び授業料の免除については、入学手続き時にお知らせします。

4 申請方法

「検定料免除許可申請書 兼 還付請求書」（本学のホームページ（<http://www.juen.ac.jp/>）からダウンロードしてください。）に証明書類を添付の上、申請してください。

（必要な証明書類）

免除対象	必要書類
主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合	り災証明書（写し可）
主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合	死亡又は行方不明を証明する書類
居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域及び避難指示解除準備区域に指定された者	被災証明書（写し可）

5 検定料免除の申請期間

出願後 ～ 平成31年2月28日（木）（消印有効）

6 検定料免除申請書の提出先

上越教育大学入試課

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

※ 封筒の表に「検定料免除申請書在中」と朱書してください。

7 問い合わせ先

① 検定料免除に関すること

上越教育大学入試課（電話025-521-3294）

② 入学料及び授業料の免除に関すること

上越教育大学学生支援課（電話025-521-3286）

入試の個人成績等の開示

本学では、平成31年度における一般入試（前期日程、後期日程）及び推薦入試の個人成績及び調査書を**本人に限り**次のとおり開示します。

1 申請受付期間

2019年5月7日(火) ～ 2019年5月20日(月)

- ・ 窓口での申請受付は、土曜日及び日曜日を除く日の9時から17時までです。
- ・ 郵送による申請は、5月20日(月)本学到着分まで受け付けます。

2 申請方法

(1) 入試成績等開示申請書（本学所定の用紙）の請求

用紙は、2019年5月7日以降に窓口（本学入試課）で請求するか、本学ホームページ（<http://www.juen.ac.jp/>）からダウンロードしてください。

なお、郵送により用紙を請求する場合は、封筒に「学部入試成績等開示申請書請求」と朱書し、本学入試課あてに返信用封筒を同封の上、郵送してください。

返信用封筒は、長形3号（縦24cm、横12cm程度）の封筒に、本人の住所・氏名を記入し、82円分の郵便切手を貼り付けてください。

(2) 開示の申請

<窓口への持参による申請>

次のものを持参してください。

- ① 入試成績等開示申請書
- ② 本学受験票及び大学入試センター試験受験票（コピー不可）
※ 受験票を紛失した場合は、本人を確認できる身分証明書等を持参してください。
- ③ 返信用封筒（長形3号封筒に、本人の住所・氏名を記入し、512円分の郵便切手を貼り付けたもの）

<郵送による申請>

次のものを必ず「書留」で郵送してください。

- ① 入試成績等開示申請書
- ② 本学受験票及び大学入試センター試験受験票（コピー不可）
- ③ 返信用封筒（長形3号封筒に、本人の住所・氏名を記入し、512円分の郵便切手を貼り付けたもの）

(注) 申請は本人に限ります。代理人又は電話での申込みには応じません。

3 開示内容

平成31年度入試に係る次の内容を開示します。

(1) 得点等

① 一般入試

本学が判定に利用した大学入試センター試験の教科・科目ごとの得点及び合計点並びに一般入試の試験区分ごとの得点及び面接の評価結果を開示します。

② 推薦入試

本学が判定に利用した大学入試センター試験の教科・科目ごとの得点及び合計点並びに面接の得点を開示します。

(2) 順位

各入試の順位を開示します。

(3) 調査書

「指導上参考となる諸事項」，「総合的な学習の時間の内容・評価」及び「備考」欄を除き開示します。

4 開示方法

申請時に提出された返信用封筒により、後日「書留」により開示内容を郵送します。

※ 詳しくは、本学ホームページ（<http://www.juen.ac.jp/>）の「入試情報／学校教育学部／インフォメーション」→「個人成績等の開示」をご覧ください。

出願状況等の提供

本学では、平成31年度入試の出願状況等について、次のとおり本学ホームページ (<http://www.juen.ac.jp/>) に掲載します。

- ・ 推薦入試の出願状況（出願者数及び倍率）
掲載期間：平成30年12月17日(月)午前9時～平成31年1月4日(金)
- ・ 一般入試（前期日程，後期日程）の出願状況（出願者数及び倍率）
掲載期間：平成31年1月29日(火)午前9時～2月8日(金)
- ・ 欠員補充第2次募集実施の有無
掲載月日：平成31年4月1日(月)正午頃

入学者に対する麻疹（はしか）等の防止措置

1 麻疹（はしか）の抗体陽性を示す証明書の提出（必須）

本学では、感染拡大を未然に防止するため、及び適切な教育研究環境を確保するため、入学時に、麻疹（はしか）について「抗体」を有していることの証明書を提出していただくことにしています。

2 風疹，水痘，ムンプス（おたふく風邪）についての勧奨(任意)

風疹，水痘，ムンプス（おたふく風邪）についても，麻疹（はしか）と同様の目的で抗体の有無を検査していただき，検査の結果，陰性又は低抗体価であった場合にはワクチンを接種していただくことをお勧めいたします。

3 抗体の検査方法等，詳細については，合格通知書送付時に同封する入学手続関係書類に記載しますので，それに従ってください。

教育実習等に係る費用負担

本学の教育実習は附属学校園（上越市）のほか，上越市，妙高市，糸魚川市及び柏崎市の幼稚園・保育園・こども園，小学校，中学校，特別支援学校から連携協力を受けており，学生は本学の指定する学校園で教育実習を行うことになります。

大学所在地から実習校園までの距離は，指定された学校園毎に様々です。遠方の学校では，おおよそ上越市内で30km，妙高市内で35km，糸魚川市内及び柏崎市内で45kmの距離があり，公共交通機関又は自家用自動車を利用していただくことになります。

なお，教育実習に係る交通費，教育実習のための教科書（教育実習ハンドブック含む）及びその他教育実習に必要なものの購入は自己負担となります。

また，本学は養成定員20人の指定保育士養成施設として認可されており，保育実習を含む定められた科目を修得することで，保育士となる資格が得られます。教育実習と同様に保育実習に係る交通費等は自己負担になります。

ノート型パーソナルコンピュータの所持

本学では、教育・研究におけるＩＣＴ（情報通信技術）活用を積極的に推進するとともに、学校における教育活動においてＩＣＴを一つの手段として活用し、効果的で魅力的な授業実践を通して児童・生徒の確かな学力の習得を図ること、及び、ＩＣＴを校務処理に活用し、効率的な学校運営を行うことなど、ＩＣＴ活用指導力を身に付けた教師の育成を図っていきたいと考えています。

このため平成17年度入学生からノート型パーソナルコンピュータを所持いただいております。このコンピュータを活用できるよう、図書館や食堂を含む学内の教育空間のほぼ全域に無線ＬＡＮ環境を整備し、学生はどこでも自由にインターネットに接続し、学習できるようになっています。

なお、入学に際して御用意いただくノート型パーソナルコンピュータの仕様や入学後の支援、その他必要な事項については、入学手続き時に改めて御案内させていただきます。

キャンパス内全面禁煙

本学では、受動喫煙を防止し、学生及び教職員等の健康を守るため、また、公立学校等における敷地内全面禁煙の実施状況を踏まえ、将来教育現場に就職することとなる学生に対し、在学中に喫煙習慣を持たせないための環境を整備するため、キャンパス内全面禁煙（学生宿舎を含みます。）としています。

本学に関する問い合わせ

学生募集要項の請求、出願方法及び入学手続等についての照会は、下記のそれぞれの担当に連絡してください。

学生募集要項（PDF版）は、本学ホームページから閲覧・ダウンロードできます。（PDF版も冊子体も同じ内容です。）また、大学案内（CAMPUS GUIDEBOOK）は本学ホームページでご覧いただけます。

郵送により本学に学生募集要項を請求する場合は、封筒の表に「**学部学生募集要項請求**」と朱書きし、角形２号（縦33cm、横24cm程度）の返信用封筒（請求者の郵便番号、住所、氏名を明記し、180円分の郵便切手を貼り付けたもの）を同封の上、下記あてに請求してください。

なお、「学生募集要項」と「大学案内（CAMPUS GUIDEBOOK）」をセットで希望される場合は、300円分の郵便切手を返信用封筒に貼り付けてください。

また、**返信用切手が貼られていない場合や住所等が明記されていない場合は、学生募集要項等を送付できないので、注意してください。**

そのほか、本学のホームページからの請求、電話による請求も行えます。請求方法は、本学のホームページを参照するか、下記の担当に問い合わせてください。

- （１） 学生募集要項の請求及び出願方法等に関すること

上越教育大学 入試課

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町１番地

電話 025-521-3294 <http://www.juen.ac.jp/>

- （２） 入学手続に関すること

上越教育大学 教育支援課教務支援チーム（教務情報担当）

電話 025-521-3278

コース（領域）の紹介

上越教育大学は、学生が、初等教育全般にわたる総合的な理解を深め、初等教育教員として必要な資質能力を培うとともに、さらに特定の分野の専門性を深め、中等教育をも見据えて力量を高めることができるよう、次の各コース（領域）を設けています。

学生は、2年次以降、本人の希望と1年次の成績に基づいて決定されたコース（領域）に所属し、そのコース（領域）に応じて、それぞれ所定の授業科目を履修することになります。

コース（領域）名及び標準学生数は次のとおりです。

なお、教科内容構成コース（保健体育）については、（保健）も含んだ領域となっています。

専 修	コ ー ス	領 域	標準学生数
学 校 教 育 専 修	学 校 教 育 実 践	教科教育実践 学級経営実践	約20人
	先端教科・領域学習	小学校英語 プログラミング教育 教科横断 学習支援	約10人
	現代教育課題	学習臨床・授業研究 発達と教育連携 道徳・生徒指導	約25人
	幼 年 教 育	幼 年 教 育	約9人
	心 理 臨 床	臨 床 心 理	約6人
	教 科 内 容 構 成	国 語 英 語 社 会 数 学 理 科 音 楽 美 術 保 健 体 育 技 術 家 庭	約90人

学生は、所定の卒業要件単位を修得することによって、全学生が学士（教育学）の学位を受けるほか、小学校教諭一種免許状を取得できます（幼年教育コースに所属する学生の場合には、幼稚園教諭一種免許状も合わせて取得できます。）。その上に所要の単位を修得することによって、幼稚園教諭の一種か二種の免許状、もしくは特定教科の中学校教諭の一種か二種の免許状、さらに高等学校教諭の一種免許状を選択して取得することができます。（ただし、授業時間割の制約上、希望する免許状が取得できないこともあります。）

○卒業要件に含まれる免許状

小学校教諭一種免許状

幼稚園教諭一種免許状（幼年教育コース）

○履修の仕方によって取得可能な免許状

幼稚園教諭一種免許状

中学校教諭一種免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語）

高等学校教諭一種免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，保健，家庭，情報，英語）

学校教育実践コース

「学校教育実践コース」は，なりたい教師像を絵を描くように自分でデザインすることであるととらえ，本コースでは，自分のなりたい教師像を描き，そのために必要な専門性を身に付けることを目指します。

学校の中ではさまざまなことが次々と起こります。教師には，それらのできごとを正確にとらえ，すぐさま適切に対応することが求められています。そのためには，子どもの気持ちや行動の意味を理解すること，教科の内容や教材などについて深い知識を持っていること，子どもの置かれた社会の状況についてきちんと理解していることなど，多面的で総合的な力を備えている必要があります。

その一方で，教師という仕事は一人でやるものではなく，同僚の教師たちと一緒に授業や行事を運営したり，保護者や地域の人々と協力して子どもの健全育成に取り組んだりなど，さまざまな人々と協同して行う仕事ですから，多様な人々と協力する力も求められます。

これらの力を身につけるには，大学で多くの知識や技能を学ぶだけではなく，学校現場に実際に関わることが大切です。そのため，学校教育実践コースでは，学校現場に実際に足を運び，そこで起きていることに学びながら，教職で求められる多面的で総合的な力を身につけていきます。

また，学校教育実践コースでは，教職大学院の教科教育・学級経営実践コースと連携し，学部 of 学生とは立場の異なる大学院生と共に学ぶ機会を設けています。それによって，さまざまな人々と協力する力も高めていくことができます。

学校教育実践コースは，このような特色あるカリキュラムを通して，みなさんの夢の実現をサポートします。

先端教科・領域学習コース

先端教科・領域学習コースは、『小学校英語』、『プログラミング教育』、『教科横断』、『学習支援』の4つの領域で構成されていますが，進級後はこの4領域を統合的に学びます。つまり，小学校英語やプログラミング教育，教科の枠を超えた学習指導，特別な支援を要する学習者への配慮を総合的かつ網羅的に学ぶということです。

ただし，授業科目の選択の仕方によっては，この4領域すべてを同じように履修しなくても大丈夫です。すなわち，自分の得意な領域や重視したいことを念頭に，軽重をつけて科目を選択することも可能です。以下に，それぞれの領域の特徴を記しますのでご参照ください。

【 小学校英語 】

『小学校英語』では，小学校を中心に，中学校・高等学校において実践的な英語の指導を行うことのできる教員の養成を目指します。英語によるコミュニケーション能力を培い，英語科教育

における理論をどのように効果的な実践に繋げていくかを学びます。また、英語科における「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、協同学習やファシリテーション技術を取り入れた英語授業の設計と実践方法を学びます。特に、英語学習において必要不可欠な仲間との安定したコミュニケーションを保証するために、いかに指導者が安心・安全な環境をつくるかという観点から、その原理を追求し、リフレクティブな英語科教育を学ぶことができます。

【プログラミング教育】

私たちの生活に身近な物がインターネット経由で結びつき（IoT）、それらを人工知能（AI）が適切な判断を行う時代が到来しています。急速に社会や産業の構造が変化していく中で学校教育に求められるのは、与えられた課題を効率よくこなすだけでなく、自分なりに試行錯誤しながら新たな価値を生み出すことができる児童生徒の育成です。そのためには、教師自らが人・自然・地域・文化・学校など様々な関わりを通して、学び続けることが重要です。

本領域では、各教科の授業力と児童生徒と関わる力を高めながら、プログラミング教育等を通して、幅広い学校課題に対応することができる教員の養成を目指しています。

【教科横断】

『教科横断』では、現代的な教育課題に対して積極的にアプローチすることのできる教員を養成するために、各教科等を横断する教育実践の研究・開発を行います。異なる教科間での連携・横断や小・中・高などの校種間の接続を体系的に構想することで、最先端の専門諸科学の知見を動員・応用するという観点に立脚した指導法の研究や教材の開発を行い、多様な教育課題に対応するための資質・能力の高度化をはかることを目的としています。教科の枠を越えて子どもたちを「深い学び」にいざなうことのできるような「専門性」と「教師力」を身につけるために、多角的な視点からその原理と実践について検討を加えることのできるような特色あるカリキュラムを設けています。

【学習支援】

現在、わが国では、共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育システムの構築が進められています。これを受け、通常の学級では、障害のある児童生徒のみならず、教育上特別の支援を必要とする児童生徒が在籍していることを前提に、各教科等の指導や学級経営を行っていくことが求められています。『学習支援』では、特別支援教育の目的や意義について十分理解することを基盤に、個々の児童生徒の実態を多面的な観点から理解できる力、個々の児童生徒の実態を踏まえて各教科等の指導に当たっていくことのできる力、互いの特徴を認め合い支え合う学級づくりができる力、教職員等と連携して指導に当たっていくことのできる力を身に付ける特色あるカリキュラムを設けています。

現代教育課題コース

現代教育課題コースは3つの領域で構成されています。

【学習臨床・授業研究】

『学習臨床・授業研究』では、学校における子どもの学習場面に臨みながら学習の過程を適切に把握することを通して、子どもが自己を確立し表現できるような教育活動を展開できる授業を研究し、自らカリキュラムを創造し改善できる教員の養成を目指します。学校の多くの時間は何よりも“学習”にあてられています。学習のあり方を追求することは、学校での子どもたちの新たな世界の広がりや成長の可能性を見いだすことにつながります。

そのために、実際に子どもとの関わりをもちながら、一人ひとりの子どもの学習の実現のあり方を学ぶ科目が用意されています。それらの科目と自らテーマ設定する卒業研究とを通し、アク

ティブ・ラーニングやICTを活用した子どもの学びの質を高める学習デザインや総合学習，SDGs，国際理解，自然環境などに関する専門知と実践知を修得し，カリキュラム・マネジメントのできる資質・能力を養成します。そして，全ての学習活動の基礎となる主体的，協働的で柔軟に学びに向かう子どもの人間性を育む教育実践を展開できる教員への成長を支援します。

【 発達と教育連携 】

『発達と教育連携』では，教師と子ども，学校と地域社会との連携など，連携という視点に立って，教育学や心理学の立場から教育の在り方を専門的に追究します。具体的には，子どもの発達や心理，学校や学級の運営，教育行政や保護者・地域社会に関わる問題などを研究します。様々な教育をめぐる問題について考え，その具体的な解決策を探ることを通じて，将来，教師あるいは教育に関連する仕事に就こうとする皆さんに必要な，連携・協働して問題解決にあたる力や教育実践力を身につけることを目指しています。

現代の学校が抱える複雑な問題を解決するためには，個別的・技術的な対処法だけでなく，人間の成長・発達や教育という営みに関する根本的な理解を踏まえることが不可欠です。また，知識だけでなく，科学的で実践的な課題探究の方法と態度を学ぶことも重要です。「発達と教育連携」では，これらの点を大切にしながら，具体的には以下のような3つの観点から研究を進めています。

- (1) 学校や家庭における子どもたちの多様な「心と行動の現象」を，心理学の視点から総合的に探究します。子どもの認知的・社会的発達や学習のプロセス，それを支える多様な人間関係など，子どもたちの心を多角的に探究し，子どもたちの発達と学習を適切に援助していくための理論と方法を学びます。
- (2) 学級内の教師と子どもとの関係，子どもの仲間集団，学校の雰囲気や風土，学校と家庭や地域との関係，社会環境と子どもの歴史的な変容などについて，観察や質問紙調査，文献資料による科学的な研究手法を通して学びます。
- (3) 学校教育を支える組織的な活動や仕組みについて学びます。学級，学校という組織，教育に関わる法規や制度などについて学ぶことにより，実行可能な解決策を立て，協働して取り組める指導力ある教師の養成を目指します。

【 道徳・生徒指導 】

『道徳・生徒指導』では，児童生徒が毎日の学校生活を生き生きと充実して過ごしながら，道徳的心情と実践力の向上，社会性の育成と個性の伸長，良好な人間関係作りの能力を自ら育むためには何をどうすればよいのかを探求します。教科内容以外のあらゆる教育問題について多角的に考察を深め，教育実践に活かす具体的な予防的・開発的方策を探っていきます。将来，教職をはじめ教育に係る仕事を志向する学生 みなさんに必要な，高い知識と技能を身につけることを目指しています。

学校教育の今日的话题として，児童生徒の①規範意識の向上，②『セーフティー・カウンセリング・ガイダンス・チーム』をキーワードとする育てる生徒指導，③個別対応と望ましい集団の形成，④自己肯定感や自己管理能力を基盤としたキャリア形成，などがあります。それらを踏まえながら，具体的には以下の5つの観点から研究を進めています。

- (1) 生徒指導の視点：生徒指導は，学習（教科）指導と並び学校教育活動の二本柱の一つです。また，学校教育全体を通して行われることから，教育課程に位置付けられていない機能です。児童生徒に寄り添（沿）いながら，彼らが自分の長所を自分で伸ばしていく自己指導力を高めるために教師（教職を目指す我々）には何が求められているのか。また，何ができるのかを探求します。
- (2) 道徳教育の視点：道徳教育は，小中学校では，道徳の時間（次期学習集指導要領では『特別

の教科 道徳』)としての道徳教育と、学校教育全体を通じての道徳教育との二重構造で実施されています。また、高等学校でも授業としての道徳の時間はないものの、道徳教育の全体計画を立てることが義務付けられ、学校教育全体を通じて行われています。これらを前提に、学校教育のあらゆる領域と関連させて道徳の在り方を探求します。

- (3) 学校教育相談の視点：教育カウンセリング（教育モデルの採用，ガイダンス機能の活用，個別＋集団対応），換言すれば『育てる生徒指導』の視点に沿った児童生徒・保護者支援や校内・学外連携におけるコーディネーションとコンサルテーションまでを包括した視点で，登校拒否（不登校），非行，いじめなどの問題行動の予防と対応の在り方，良好な関係性のある集団づくり，教師の自己更新などの具体的方法を探求していきます。
 - (4) 特別活動の視点：教師と児童生徒の個人的資質と能力が，集団という場でどのように変容するのか，どうしたら望ましい集団づくりができるのか，など「個人」と「集団」の関係性について考えていきます。児童生徒における学校生活のあらゆる「為すことにより学ぶ」場面での出来事に関心を持ち，個と全体，グローバルとローカル，研究と実践，そのつなぎ目を架橋し，時に往還していきます。
 - (5) キャリア教育の視点：児童生徒のキャリア発達を促進するキャリア教育の効果について，心理・統計的な視点から実践的かつ実証的に探求していきます。グループダイナミクス研究の創始者であるKurt Lewinの『理論なき実践は盲目であり，実践なき理論は空虚である』の言葉を重視し，キャリア教育，職業指導，進路指導，キャリア発達，キャリアデザイン等を中心に，学校教育をあらゆる視点から検討し，人の生き方・あり方，キャリアについて探求を深めます。
- ※上越教育大学は本領域の教員をコアとして，鳴門教育大学，宮城教育大学，福岡教育大学と協働し，文部科学省の委託事業である『いじめ防止プロジェクト』を展開しています。

幼年教育コース

幼年教育コースでは，幼年期における子どもの発達とそれを支える幼稚園やこども園の教育，保育所保育，家庭教育や子育てで支援について学びます。これから初等教育の出発点に立つ教師・保育者として，保護者や地域，諸学校と連携しながら，みずからの実践の質をどのように高め，子どもの発達を支えていくべきかについて，理解を深めていきます。

心身ともに著しく発達し，生活の場が急速に拡大するのが幼年期です。この時期の子ども一人ひとりの発達にふさわしい環境を，教師・保育者・子育ての支援者や保護者が子ども自身と一緒に作り上げていくことから，幼年教育は始まります。しかし現代の家庭や子どもの諸施設には，さまざまな問題が生じています。それらを見定め，どのように解決していったらよいのかをともに考え，実践に移していくことがいま必要です。

私たちの学習内容は，幼年教育学，幼年心理学，保育内容の研究から構成されます。保育内容の研究には，健康，人間関係，環境，言葉，表現の5つの領域が含まれます。

幼稚園やこども園，保育所，小学校での教育実習における学習も重要な位置を占めています。幼年期の子どもや幼年教育の実際は，より広い視点から，現場で子どもたちと触れ合いながら学ぶことが必要です。理論と実践の両面から総合的，共同的に学び合うことを通して，地域における教育・保育・子育ての優れた担い手となってもらうことが本コースの目的です。多くの仲間が幼年教育コースに集うことを期待しています。

心理臨床コース

現在の学校現場では、いじめ、不登校、ひきこもり、非行、虐待、発達障害など、子どものころに関するさまざまな問題に対応することが求められています。『心理臨床』コースでは、教科を教える力だけではなく、子どもの内面についても理解する力を身につけることを目指しています。「こころ」の問題は実に多様であり、さまざまな悩みや症状となって現れます。本コースでは、子どもたちのさまざまなこころの問題を理解し、解決できるように援助する心理療法の理論と技法について専門的に学ぶことができます。学校現場での教育相談や生徒指導に生かすことができる専門性を身につけることを目指しています。

本コースでは学部を卒業するだけでなく、大学院修士課程を通した複数のルートから選択ができます。1つ目は、希望する教科の免許を取得することはもちろん、カウンセリング技法をはじめ、子どもたちとかかわる力を身につけ、学校現場で学級経営に活かす【教員】のルートです。2つ目は学部の心理学の学びをさらに高めるために【大学院修士課程に進学】するルートです。このなかにはさらに選択肢があり、修士課程を終えて教員となる場合、修士課程で臨床心理士養成カリキュラムを終え、修了と同時に受験資格を得る場合があります。教員免許と臨床心理士資格の2つをもった教員として、あるいは臨床心理士として働きます。さらに、学部で小学校教諭一種免許に必要な単位に加え、公認心理師対応の指定科目を履修し大学院修士課程の公認心理師養成カリキュラムを終えて、修了と同時に国家試験の受験資格を得る方法もあります。こちらも心理面で高度な知識と技能を有した教員として、あるいは公認心理師としてさまざまな分野で活躍できます。大学院では臨床心理士と公認心理師の2資格の受験資格を得ることも可能です。

教員はさまざまな現場での経験豊富な臨床心理士の有資格者であり、実践に基づいた指導を行っており、充実した実習をはじめ、高い評価を得ています。学校現場だけでなく、教育関連あるいは医療保健、福祉、司法・矯正、産業労働分野とさまざまな場で活躍できる人材育成を目指しています。

教科内容構成コース

【国語】

私たちは日本語をもちいて、表現し、理解し、伝達し合っています。すなわち、国語はすべての学びの基礎といっても良いでしょう。加えて、言語芸術としての文学の領域など、それ自体が大切な文化であるともいえます。それらを学校教育において担うのが、「国語」です。教科内容構成コース『国語』では、国語学・国文学・書写書道・国語科教育の各専門領域にわたって学力を確実に身に付けるとともに、子どもたちのことばの学びが生き生きしてまた深いものであるよう導く力を養います。

国語学では、日本語の音声や語彙、文法、文体などを取り上げて、日本語の多様な姿を地域や時代にとらわれずに幅広く学びます。

国文学では、代表的な古典文学の講読や演習を通じて、古典を深く理解する方法を学びます。また、近代の文学作品を読みとく方法やその意義・面白さを理解する授業があります。漢文学では、思想・史伝・詩文関係の資料の講読を行う授業を用意しています。

書写書道では、筆記具の持ち方から、なぜ筆順を覚えるのか、どうしたら字がきれいになるの

かといった内容理論を学び、子どもたちが楽しく字が書けるよう導くための学習方法などについて扱います。

国語科教育では、国語科教育の目標・教材・学習指導法など、多角的な視点からその原理と実践について検討することを通じて、国語科教育の全体像の把握ができるような授業が組まれています。

これらを通して、教育現場で国語の学びをリードしていく教師になってもらえるよう、ともに研鑽していきたいと思っています。

【 英語 】

『英語』は、小学校・中学校・高等学校における英語教育を担う実践力のある教員を養成することを目的としています。

そのために、英語及び英米文化、あるいは広く異文化に興味を持ち、学習意欲の旺盛な人を歓迎します。そのような学生を受け入れて、英語によるコミュニケーション能力を育成するとともに、英語科教育、小学校英語教育、英語学及び異文化コミュニケーションに関する理論的・実践的な研究を指導します。

英語科教育では、英語科教育の理論と方法、教材、評価方法、言語習得、実践的な英語コミュニケーションなどについて、多角的な視点から学びます。小学校英語教育では、外国語活動・外国語科について発達段階に対応した授業設計・実践・改善方法等について学びます。CLIL（内容言語統合型学習）等の最近の指導理論についても学びます。英語学では、英語の音声や文法について基本的事項を学習する授業や、英語または第二言語英語の個別のテーマについて掘り下げて検討を行う授業があります。異文化コミュニケーションでは、社会のグローバル化に対応し、多文化共生を支援し、異文化理解マインドを持った人材育成を目指しています。また、英語文学の授業では、英語文化圏における小説などを楽しむことができます。

本学では、LL教室とマルチメディア語学教室での授業や、外国人教師による授業も取り入れられており、多様で充実した学習が可能です。

【 社会 】

学校での教育実践のなかでも、社会科（地理歴史科・公民科）という教科で現在求められている授業を行うために必要な人文科学・社会科学・自然科学及び社会科教育（地理教育・歴史教育・公民教育）の諸領域について総合的・専門的な研究・教育を行います。この目的を達成するために、①社会認識の地理的多様性を識るとともに歴史的変遷の跡をたどること、②社会構造を明らかにすること、③これらの研究成果を教育実践に有機的に関連づけること、を重視しています。

1年次では人間教育学関連科目の学習が中心となりますが、2年次からは、地理学、歴史学、法学、政治学、経済学、社会学、哲学、倫理学、宗教学、社会科教育の講義や実験の履修が始まります。さらに、3年次からは多数の専門科目や専門セミナーの科目が開講されます。具体的には、地理学、歴史学、法学、政治学、経済学、宗教学、社会科教育の講義及び文献講読が開講されると共に、卒業研究へ向けての各分野の専門セミナーが始まります。専門セミナーは4年次にも開講され、2年間にわたって、きめの細かい指導を受け、卒業論文を作成することになります。

また、野外に出て実践的な調査法を学ぶ地域調査法が地理学、歴史学にそれぞれ開講されていることに加え、地域の学校で活躍する社会科の先生らと連携した研究・教育活動が学内外で活発になされていることも本領域の特徴です。

このような学修の結果、コースのほとんどの学生が、小学校免許に加えて中学校の社会並びに高等学校の地理歴史科・公民科の免許も取得し、社会科という幅広い教科教育実践が得意な「学校の先生」として活躍しています。

以上のように、『社会』では各分野の専門性を保ちながらも、その学際性を生かすことに留意し、意欲のある学生を心から待っています。

【 数学 】

『数学』は、数学や数学的な考え方に興味をもち、それを発展させて、教育に生かしてみたいと思う人のためにあります。小学校の算数教育の中心的な存在になれるような教員の養成、中学校及び高等学校の数学科を担当できる教員をも養成することを目的としています。

『数学』には、代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータ、数学科教育の6つの領域があります。それぞれの領域における講義内容の主な特徴は次のとおりです。

代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学の領域では、それぞれに対応する現代数学の初歩的内容とその基本的な考え方を講義します。コンピュータの領域では、初歩的なプログラミングの実習を行い、コンピュータの仕組みやその限界について体験的に学ぶ機会を提供します。数学科教育の領域では、算数・数学の教材分析や授業分析などを通して、その背景にある算数・数学教育の理論や指導法について講義します。

特徴的なものを挙げると、第1に、3年次の授業科目「実践セミナー」において、大学院生と一緒に算数・数学のマикроティーチングを行うことです。授業を見据えた教材分析、授業の仕方、教師と子どもの相互作用などについての議論を通して算数・数学教育実践について学びます。さらに、授業で扱われた教材の数学的背景について考察し、教材の発展の仕方について学びます。第2に、3年次から開始される専門セミナーⅠにおいて、学生は各教員に2、3名ずつに分かれて、数学（代数学、幾何学、解析学）や数学教育学のゼミを行うことです。これは4年次の専門セミナーⅡへと引き継がれ、卒業研究へと発展するものです。数学のゼミでは、主に数学の専門書を人間が考え出したものとして読み解き、それを発表し合います。これを通して算数・数学を教えるときに大切な人間の活動としての生きた数学やその奥深さを体験的に学びます。数学教育学のゼミでは、例えば、算数・数学教育の一つの教材について深く調べたり、その背景にある数学や教育思想について考えたり、あるいは、実際の授業や子どもの活動の様子を分析したことを発表し合います。

これまで数多くの卒業生が、全国各地の小中学校の教員として活躍しています。最近では、本学大学院に進学し、より高い実践力を身につけて教職に就く人も増えてきました。また、数学の知識を生かして企業に就職する人もいます。

【 理科 】

『理科』は、自然科学に関して広い視野と深い素養を持ち、学校現場において実践力のある教師を育成することを目標としています。自然に興味・関心をもち、観察や実験が好きな人や、将来、理科の楽しさを子どもたちに伝えていきたい人を歓迎します。

『理科』は、「理科教育学」、「物理学」、「化学」、「生物学」、「地学」の5つの領域で構成されています。各領域では、関連した教材研究や指導法、および専門的な研究を行っています。

2年次に『理科』に所属すると、各領域の講義と実験の履修が始まります。特に、観察や実験の授業は、本を読むなどの独力では学ぶことのできない貴重な体験となります。3年次からは、各研究室に数名ずつ所属し、専門セミナーを受講しながら卒業研究をまとめることになります。3・4年次にわたって卒業研究を行い、理科の課題発見・解決のプロセスを実体験することにより、理科教師が備えるべき科学的素養を身につけることができます。

いま、小・中学校では、資質・能力を育てるとともに、各教科の特質に応じた“見方・考え方”を働かせる能力が重視されています。では、理科の“見方・考え方”を働かせるとはどのような意味なのでしょう？ 『理科』に所属し、学びを深めることで、その意味が自ずと理解でき

るようになります。また、子どもたちが“理科の見方・考え方を働かせる”ための指導方法を修得することができます。

理科で扱う内容は、日常の生活や社会の中でも役立ちます。理科は決して難しい教科ではなく、充分な観察や実験を通して勉強すると、とても分かりやすい教科です。

【音楽】

『音楽』では、自ら音楽に興味を持ち、それをさらに発展させて教育の場に生かそうとする意欲を持っている人を歓迎します。

『音楽』には、声楽、器楽、作曲、音楽学、音楽科教育についての授業があります。具体的には、ソルフェージュ、指揮法、合奏、合唱、作曲、声楽、音楽史、ピアノ・管楽器の基礎や表現法を学ぶ授業、日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽と文化について学ぶ授業、初等・中等音楽科指導法などの講義や演習が開講されています。実践セミナーでは、大学院生と合同で、音楽教育にかかわる幅広いテーマを実践的に学んでいます。

『音楽』の特徴には、次の点があります。

- ①様々な専門の教員による指導体制が充実しているので、音楽の実技・理論の両面にわたって、また、幅広い時代と地域の音楽について専門的に学ぶことができます。
- ②合唱のように、学年を越えて、合同で行われる授業もあります。
- ③箏、三味線、尺八、篠笛、太鼓など各種和楽器に加えて、バリ・ガムランのセットが一式そろえられ、これらの楽器を使って、日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽について、幅広く学ぶことができます。
- ④3・4年次の専門セミナーの授業では、学生の希望に応じた研究内容に即して個人指導又はゼミナール形式で行う専門性の高い研究の場が提供されています。これらの授業は、卒業演奏会や卒業論文へと発展します。
- ⑤音楽劇創作演習では、台本・作曲・演奏・演技をはじめとして、舞台制作に関わる部分も含めた授業が行われ、本学講堂を舞台に、学生による自作自演の音楽劇を毎年上演しています。
- ⑥また、吹奏楽、合唱、弦楽合奏、ガムラン、箏曲など多様な音楽の課外活動も活発で、定期演奏会の他、地域との積極的な交流演奏会を行っています。

『音楽』の学生は、入学時までの音楽体験の多少にかかわらず卒業する頃には見違えるほどの力がついてきます。また、卒業生は、本学大学院に進学する人、小学校、中学校、高等学校で教職に就く人を主として、音楽の専門分野、音楽関連企業など多方面で活躍しています。

【美術】

『美術』は、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論の専門領域と、美術科教育を通して、人間と美術と教育のかかわりについて学んでいく領域です。

『美術』では、カリキュラムを通して、デッサン、水彩画、油彩画、版画、テンペラ画、日本画、フレスコ画、塑造、テラコッタ、木彫、石彫、グラフィックデザイン、イラストレーション、写真、プロダクトデザイン、アニメーション、絵本、木工芸、陶芸、ガラス、金工、美術史、美術理論、制作論、美術館教育など、美術と教育に関する多様なテーマで研究を進めることができます。また、美術館での作品鑑賞、作家や工房を訪れる研修、子ども達とのワークショップなど、学外や地域と連携した活動も行われています。

『美術』の学生は、一人ひとりの意向を尊重した専門セミナーにおける個人指導のもとに、恵まれた施設及び設備を使って学ぶことができます。高等学校で美術を履修していない場合でも授業を通して各種の展覧会や発表で、自分自身の表現を身につけることもできます。それは、自分の自信になるだけでなく、教師としての資質も高められ、教職の場でも大いに生かされるでしょう。

学校教育における美術・図画工作は、子どもたち一人ひとりの表現の意味と価値を認める大切な教科です。作品をつくったり、見たり、話したりすることの大好きな子どもたちを育てていくために、教材研究、指導法など子どもの学びの姿をもとに、学部学生と大学院生と教員が共に研究を深めていきます。

卒業生は、小学校、中学校、高等学校の教職だけでなく、美術館などの社会教育機関、美術の専門分野、美術関連企業など、多方面にわたって活躍しています。また、大学院に進学し、さらに研究を深めることもできます。

【 保健体育 】

『保健体育』は、将来、小学校における体育指導の中心的存在として、あるいは、中学校または高等学校の体育・保健教科を担当できる専門的資質をもった教員の育成を目指しています。

児童・生徒の活発な屋内外の遊びや運動は、運動能力、体力、体格の発達を促し、健康の保持増進に資するとともに、人間的な成長にとって極めて大切な情緒の安定、自己統制力、他者を理解し思いやる心などを育むことと深い関わりがあります。児童・生徒の人間的な成長や発達、人々の健康の保持増進を願う指導者にとって重要となる課題は、健康や運動についての正しい理解と適切な方法を修得し、実際の指導に結びつけていくことです。

『保健体育』は、運動や健康に興味関心を持ち、児童・生徒の人間的な成長や発達、人々の幸福のために尽力しようとする人、さらには運動の意義や価値を人間の立場から探求することに興味のある人、また、自らも運動実践に興味を持つ人を歓迎します。

『保健体育』では、専門科目の学修や研究を通して、学術的な運動の原理、健康の意味、体育の指導について理解を深めることを目標にしています。

【 技術 】

『技術』では、生活に役立つ製品の創造・開発、コンピュータの基本的構成・操作、情報活用能力と技術を身につけ、それらを生活や社会に生かせる能力を持った生徒を育てる教員の養成を目指します。この目標のため、『技術』では、次の7つの学問に関して授業科目を用意しています。さらに、3年次から専門セミナーを受講し、専門的な知識を身に付け、卒業研究に取り組むことで実践力を養います。各学問の主な内容は次のとおりです。

技術科教育学では、「材料と加工の技術」、「生物育成の技術」、「エネルギー変換の技術」、「情報の技術」に関する教育が、全人的な陶冶と感性を発達させ、工夫・創造能力を育むために不可欠であることを学びます。技術科のカリキュラムづくり、教材研究論などを学び、技術科教員として必要な基礎的・基本的実践力を養います。

木材加工学では、木材の性質・特徴を理解し、木材を生活に役立つ製作品（例えば、本立て、椅子）に仕上げるための基礎的な知識と技術を習得します。手加工では、さしがね、平かん、両刃のこぎり、げんのうなどの工具を使用し、機械加工では、帯のこ盤、自動かん盤、丸のこ盤などを使用します。これらの実習では、安全を保持する態度も育てます。

金属加工学では、「金属加工法」で中学技術科での指導に必要とされる金属加工の基礎事項を学習し、これに必要な知識・技術の習得を図ります。

電気・電子工学では、日常なにげなく利用している電気に対する認識を再確認することから始まり、そのために電気工学、電気回路、電子工学などの基礎を学んだ後、それらを応用した電気・電子回路の製作実習や特性測定などを通じて、電気・電子工学の基礎理論から応用技術までのアウトラインを学びます。

機械工学では、ものづくりの基本である機械部品・機構の設計プロセス、材料選択、強度計算、製作法などを学習します。3年次で機械工学実習を行い、手動機械の操作およびものづくりの喜びを体得します。また、コンピュータを駆使し設計・製図を行うCAD及びそれをもとに工作機械を

操作するCAMの技術を習得し、メカトロニクス(機械工学と電子工学が融合した技術)の基礎知識を身につけます。

情報工学では、1年次に行われる情報教育関連科目の理解をさらに深めるため、コンピュータの構成と動作原理、プログラミング技術、情報メディアの活用、インターネットの仕組みと構成機器などを学習します。これらに関する講義と演習によって、情報工学の基礎理論から応用技術を修得し、社会や生活における課題を情報工学で解決する方法を体験的に学びます。

栽培学では、畑や室内で栽培植物を育成する実践的指導力を身に付け、動物の飼育技術と作物・水産生物の栽培技術の探究活動を通して、生物育成環境の調節方法などの最適化を図る基礎的な技術を学習します。

【 家庭 】

『家庭』では、生活について自然・社会・人文科学などの立場から総合的に学び、社会環境の変化による複合的な生活の問題に対応できる専門的な資質・能力をもった人材を育成することを目指しています。

具体的には、家族関係学、生活経営学(家庭経済学を含む)、保育学、被服学、食物学、家庭科教育学、生活情報処理などを学び、3年次からの専門セミナーでは授業で学んだことを総合化する力をみがくとともに専門的な知識を深め、卒業研究につながるよう課題に取り組みます。教育現場では、意欲的に家庭科を担当する教員を強く望んでいます。また、『家庭』で身につけた力は、家庭科を担当する上でのみならず、小学校の生活科や小・中学校の「総合的な学習の時間」を担当する上でもいかに発揮されることでしょう。

卒業後の進路には、幼・小・中・高等学校の教員のほか、消費者問題や社会福祉等に関する教育や指導の道、地域活動での活躍の道などが開かれています。また、教員としての資質向上や教育実践能力の向上、あるいは専門知識・研究を深めるなどのために、本学大学院へ進学する道も開かれています。

人の生活にかかわる様々なことがらや問題に興味と関心を持ち、「学びたい」という意欲のある学生には最適な教育・研究の場です。

平成30年度入試合格者成績情報

日 程 ・ 試 験 の 区 分			配点	平成30年度合格者		
				最高点	最低点	平均点
前期日程	大学入試センター試験		900	6 2 8 点	5 3 8 点	5 7 4 . 7 点
	個別学力検査等	小 論 文	90	7 0 点	4 6 点	5 7 . 4 点
		実技検査	90	9 0 点	3 3 点	6 8 . 3 点
後期日程	大学入試センター試験		900	6 3 6 点	5 8 1 点	6 0 1 . 2 点
推薦入試	大学入試センター試験		900	6 4 0 点	4 6 0 点	5 3 0 . 5 点
	面接		270	2 6 7 . 3 点	1 8 9 点	2 3 4 . 1 点

平成30年度入学試験状況

区分	難 関	応 募 者	受 験 者	当初合格者	当初手続者	追加合格	追合手続	合格者総数	入学者数
推薦	50	1 1 4 (68)	1 1 1 (67)	5 0 (32)	5 0 (32)			5 0 (32)	5 0 (32)
前期	77	3 2 9 (174)	2 7 1 (139)	8 8 (50)	8 6 (48)			8 8 (50)	8 6 (48)
後期	33	3 3 8 (165)	9 9 (45)	3 9 (16)	3 1 (12)			3 9 (16)	3 1 (12)
私費	計	0	—	—	—			—	—
計	160	7 8 1 (407)	4 8 1 (251)	1 7 7 (98)	1 6 7 (92)			1 7 7 (98)	1 6 7 (92)

() 内は女子で内数

平成30年度 上越教育大学入学者選抜試験

試 験 問 題

前期日程	後期日程	推薦入試
小論文 小論文出題の意図 小論文採点基準 実技検査（音楽） 実技検査（美術） 実技検査（体育）	面接における主な質問 事項	面接における質問事項

小論文試験問題

平成30年度上越教育大学一般入試（前期日程）

小論文試験問題出題の意図

本書は、学校現場における教師の実践力を「学校臨床力」と位置づけ、より豊かな人間関係を構築することの重要性を指摘している。

問題文では、情報化社会の進展にともなって、個人の「経験」が危機にさらされており、「主体性」が脅かされ、互いの「関係」が希薄になっていると主張している。

この文章を読み解きつつ、自らの「経験」と「主体性」、さらに他者との「関係」について省察し、幅広く学校現場を含めた未来の社会についても論じてほしい。それによって読解力や独自の思考力、表現力を見る。

注 意 事 項

- 一 解答を始める前に、解答用紙に受験番号と氏名を正確に記入すること。
- 二 解答は、「H、F、HB」の黒鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 三 印刷が不鮮明な場合を除いて、一切の質問に応じない。
- 四 解答は、解答用紙の所定の欄に縦書きで記入すること。下書き用紙での解答は無効である。
- 五 試験終了までに、下書き用紙から解答用紙に転記できないことのないよう、下書きと解答の時間配分を十分考えて解答すること。
- 六 試験終了後は、解答用紙だけを提出すること。
- 七 問題用紙と下書き用紙は、各自持ち帰ること。

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

学校臨床力について考えるとき、筆者にまず思い浮かぶキーワードは、「経験」と「関係」です。結論を先取りして述べると、関係の中で経験が豊かになり、経験を通して関係が豊かになる、そのような関係と経験を子どもと教師の間に生み出していく力、筆者はそれを学校臨床力の重要な基盤ととらえたいと思います。筆者の考えを説明するために、まずは「経験の危機」に目を向けましょう。

20世紀終盤以来、現在進行形で進展しつつある社会の大きな変化の一つとして、「世界の情報化」とでも呼ぶべきものがあります。それは社会の進歩であつて、日常生活はより便利になってきたし、これからもそうなり続けると歓迎する向きもあります。他方で、負の側面として、それに伴って大きく変質し、危機に瀕しているのが「経験」であると、筆者は認識しています。

情報技術が高度化し、情報機器が個人の手元にまで普及することで、経験の断片化が進行しているのではないのでしょうか。例えば、公共交通機関の中で、あるいは路上で、スマートフォンのディスプレイをのぞき込んでいる人の姿を、今では当たり前のように目にするようになりました。中高生によるスマートフォンの長時間使用も社会問題として認識されつつあります。情報機器を自在に使いこなす人々ほど、日常生活の多くの部分を、ディスプレイの中の視覚情報と接触して過ごしていることになるでしょう。情報機器のディスプレイは、自分の思うがままに次々に新しい情報や画面を呼び出し、それまで見ていた情報や画面は次々に消えていく場です。そこでは、前後の経験のつながりよりは、軽やかな飛躍のほうが歓迎されます。そこでは、自分が経験したこと、経験していることを、まとめ上げ、過去の自分の経験と関連づけて意味づけることよりも、過去にこだわらず、次々に目の前に現れる変化に応じて自分の意識のあり方を切り替えていくことが重視されていると思われます。

主体性という言葉があります。この言葉で意味されるものは人によりまちまちですが、ここでは自分の意思を持ち、価値の軽重の判断を行い、自ら行動を起こし、その結果について責任を負うパーソナリティの機能ととらえておきたいと思います。主体性は、近代以降の社会において重んじられてきた主要な理念の一つです。主体性の確立は、人間の成長において必要なこととされ、目標とされてきました。広い意味での生徒指導の目標も、子どもの主体性を確立することと言いつつ表すこともできるでしょう。

主体性の基盤として不可欠なものが経験です。より正確には、経験を自分のものとしてまとめ上げていく力です。そこでは、内省することが重要な契機となっています。立ち止まり、振り返って、現在と過去を比べる、他者と自分を比べる、自分が予想していたことと実際に起きたことを比べる、そうした心の働きを積み重ねていくことが、経験をまとめ上げ、そうしてまとめ上げられた経験が、それ以後の自分の価値判断の準拠点となり、行動決定の指針となっていくのです。

自分の経験を振り返る、内省することは、考える、思考することの基盤でもあります。それは、その人個人の心の働きであり、一人で孤独に行えばすむことのように見えますが、実際にはそうではありません。人は、他者からの助けがなければ、他者との関係がなければ、経験を自分の経験としてまとめ上げていくことが難しいのです。別の言い方をすれば、人が自分の経験を自分のものとしてまとめ上げるには、自分を一人のまとまりのある経験の主体として認めてかわつてくれる他者の存在が不可欠なのです。

情報機器を扱うことに没頭することは、日常生活の利便性と効率を高めてくれるかもしれませんが、自分の経験をまとめ上げ、主体性を育むことを助けてはくれないでしょう。情報機器は、さまざまな有益な情報を提供して、その利用者を楽しませてくれるかもしれませんが、情報機器のほうは、その利用者の存在を楽しんではくれません。その利用者の存在を楽しみ、認めてくれるのは、情報機器を介して接触している他者なのです。しかし、情報機器を介して接触しているのは、生身の他者ではありません。あくまで、情報機器を介してフィルタリングされた他者です。

（小松貴弘著「学校臨床力3 経験を育むということ」角田豊・片山紀子・小松貴弘編著『子どもを育む学校臨床力 多様性の時代の生徒指導・教育相談・特別支援』二〇一六年所収より。
なお、出題にあたり一部表記を変更した箇所がある。）

設問 **まず、著者が述べていることを二〇〇字程度で要約しなさい。次に、著者の考える「経験の危機」について、あなたの考えを六〇〇字程度で述べなさい。全体で八〇〇字以内（厳守）とします。**

小論文試験問題採点基準

採点方法

複数の採点者が以下の採点基準に従い、各自90点満点で採点し、その平均点を受験者の得点とする。

採点基準

1 読解力

筆者の論旨を的確に読み解き、要旨としてまとめられているか。

2 独自性

「経験」の意味について、自分自身の反省や考察に基づいた議論が行われているか。

3 表現力

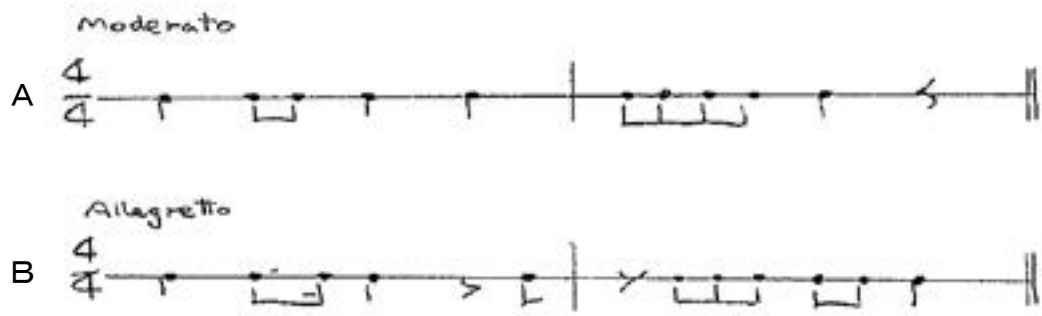
論述に一貫性や明晰性があり、適切な表現を用いて文章がまとめられているか。

実技検査（音楽）試験内容及び採点の観点

○基礎音楽能力テスト

1. リズム感覚検査（聴取，記憶，再現）

検査担当者が打つ次のリズムを聴き，同じリズムを受験者がマレットで打つ。（A，Bとも）



2. 音感検査（聴取，音程感，発声など）

検査担当者が弾く次のピアノの音を聴き，同じ高さの音を「ア」で歌う。（A，B，Cとも）



3. 視唱能力検査（読譜力，発声，表現力など）

次の楽譜を見ながら「ドレミ」または母音で歌う。受験者は検査直前に1分間楽譜を見ることができる。最初にピアノで主和音と開始音を与える。申し出により移調も可とする。



採点の観点

問題1 聞いたリズムを正確に打てるかどうか。

問題2 提示された音を再現できるかどうか。

問題3 与えられた楽譜を読み取って歌えるかどうか。

以上の結果をもとに適性を総合的に判断する。

平成30年度上越教育大学一般入試（前期日程）

実技検査（美術）試験内容及び採点の観点

○ 造形表現テスト

問題

配付されている描画対象物（タオルとオリーブオイルとブルーとプチトマト）を下敷き用紙上に自由に配置し、解答用紙に鉛筆で描画しなさい。

- ① 解答用紙は、縦に使っても横に使ってもよい。
- ② 対象物は、すべてが少しでも見えるように、下敷き用紙上に配置すること。
- ③ 下敷き用紙は、折り曲げたり、切ったりしてはいけません。
- ④ 画鋸は、解答用紙を固定するのに用いること。
- ⑤ 配置した対象物は、試験終了後もそのままにしておくこと。

注意事項

1. 机の上には次のものが置いてあります。監督者の指示に従って確認し、不足のものや破損したものがあれば、手を高く挙げなさい。

〔用紙〕	解答用紙 1枚、下敷き用紙 1枚
〔描画対象物〕	タオル 1本、オリーブオイル 1本、ブルー 1個、 プチトマト 3個
〔用具〕	2H, HB, 2B, 4B, 6Bの黒鉛筆 各1本、 消しゴム、鉛筆削り、画板、画鋸 4個

2. 指示に従って、受験番号・氏名を解答用紙に記入しなさい。
3. 試験終了後、問題用紙は持ち帰りなさい。

採点の観点

以下の4項目の観点を中心に総合的に評価する。

- (1) 構成の工夫や広がりが見られるか。
- (2) 素材を生かした表現を行っているか。
- (3) 描画材である鉛筆による表現の幅が見られるか。
- (4) 表現しようとする思いや考えを伝えようと努力しているか。

平成30年度上越教育大学一般入試（前期日程）

実技検査（体育）試験内容及び採点の観点

○ 運動能力テスト

敏捷性，脚筋力，調整力及び柔軟性を含む総合的な運動の基礎的能力を次の3種目でみる。

①反復横とび ②立ち三段跳び※ ③長座体前屈

※ 両足を揃えた立位姿勢から，右足，左足（または左足，右足）と接地し，3歩目に両足で着地する跳躍運動。

採点の観点

運動の基礎的能力の観点から評価し，入学後の学習に必要な適性をみる。

平成30年度上越教育大学一般入試（後期日程）

面接における主な質問事項

- あなたが、教員を志望した理由を話してください。
- 本学に入学して、ぜひ身につけたい力は何ですか。
また、それを大学4年間で、どのように身につけていきたいと考えていますか。
- あなたが好きな教科は何ですか。その教科の魅力について詳しく話してください。
- 最近、授業の中で、グループで協働的に学ぶ活動が注目されています。
もし、グループでの学習活動を行う上で問題点があるとしたら、どんな点だと思いませんか。あなた自身の経験をふまえて話してください。

平成 3 0 年 度 上 越 教 育 大 学 推 薦 入 試

面 接 に お け る 質 問 事 項

個別質問

- ・ あなたが教員になろうと心に決めたのは、いつ頃のことでしたか。
そのきっかけや理由などを含めて話してください。
- ・ あなたは、これからの教員にとって、どのような力が必要だと思いますか。
また、その力をつけるために、大学入学後どのように取り組んでいきたいと考えていますか。

集団討論のテーマ

小学生から「何のために勉強するの？勉強は何の役に立つの？」と問われたとき、あなたはどのように答えますか。勉強することの意味について討議し、小学生にも分かるような説明を考えてください。

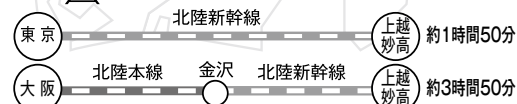


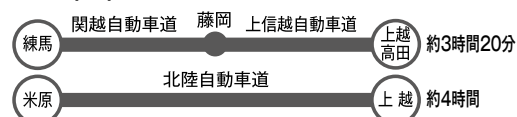
- ・えちごトキめき鉄道(妙高はねうまライン)のり線に乗車(約10分)、「春日山駅」下車、徒歩で約25分(2.2km)
- ・上越妙高駅前から山麓線乗車、教育大学東下車(バス・約20分、平日のみ運行、1日3便)
- ・上越妙高駅前からタクシー乗車(約20分)

- ・直江津駅前から教育大学線乗車、教育大学下車(バス・約20分)
- ・直江津駅前から山麓線乗車、教育大学東下車(バス・約15分、平日のみ運行、1日3便)
- ・直江津駅前からタクシー乗車(約10分)

- ・高田駅近くの本町六丁目停留所から教育大学線乗車、教育大学下車(バス・約15分)
- ・高田駅前からタクシー乗車(約10分)







上越教育大学の
イメージキャラクター
マナー・デ・ジョーキョー先生



至 赤倉野外活動施設



2019

学生募集要項

平成30年11月発行

編集発行 ■ 上越教育大学入試課

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

tel.025-521-3294

<http://www.juen.ac.jp/>